

令和6年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会

第1回E分科会

日時： 令和6年10月7日（月）午後3時00分～
場所： 気仙沼市ワンテン庁舎大ホール+オンライン

次 第

1 開 会

2 挨 捶

3 出席者紹介

4 報 告

（1）今年度における取組事項について

5 協 議

（1）E-1：広域市場データ共有基盤の事業計画

（1）E-2：第1回水産バリューチェーン研究会

6 そ の 他

第2回水産バリューチェーン研究会開催日時 10月18日（金）13時～

7 閉 会

【配布資料】

- 1 次第（本紙）
- 2 出席者名簿
- 3 説明資料
- 4 説明資料・別添資料

令和6年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第1回E分科会名簿

【気仙沼市デジタル水産業推進協議会E分科会員】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	分科会長	株式会社カネダイ・ 気仙沼冷凍水産加工業協同組合	代表取締役社長・ 組合員	佐藤俊輔	オンライン
2	副分科会長	株式会社阿部長商店	経営管理部 部長	菅原圭介	会場
3		株式会社さんりくみらい	代表取締役	藤田純一	オンライン
4	学識経験者	東京海洋大学	海洋生命科学部 名誉教授	東海正	オンライン
5	各種団体 ・企業 (所属名順)	気仙沼漁業協同組合・ 気仙沼市デジタル水産業推進協議会	代表理事組合長・ 会長	齋藤徹夫	オンライン
6		株式会社石渡商店	代表取締役社長	石渡久師	オンライン
7		気仙沼漁業協同組合	魚市場部水揚管理課 課長	小野寺雄一	会場
8		気仙沼商工会議所	総務課長兼デジタル化 推進室長	佐藤淳一	会場
9		気仙沼市物産振興協会	事務局長	高橋ちひろ	欠席
10		株式会社八葉水産	取締役常務	清水健佑	オンライン
11		株式会社藤田鐵工所	代表取締役社長	米倉工雄	オンライン
12		宮城県漁業協同組合気仙沼総合支所	支所長	山内裕	欠席
13	関係 行政機関	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部	技術副参事 兼総括技術次長	鈴木永二	オンライン代理出席 班長 阿部修久
14	気仙沼市	気仙沼市	デジタル補佐官	種子野亮	オンライン

【アドバイザー】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	外部企業	株式会社フーディソン	代表取締役CEO	山本徹	オンライン

【事務局】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	気仙沼市	産業部水産課	課長	齋藤英敏	
2		産業部水産課加工振興係	課長補佐兼係長	日野卓	
3		産業部水産課魚市場係	係長	三浦美幸	
4		産業部水産課漁業振興係	主幹兼係長	小野寺幸史	
5		産業部水産課漁業振興係	主幹	佐藤吉	
6	支援企業	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	主任研究員	秋元康男	
7		三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	主任研究員	清谷康平	



令和6年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第1回E分科会

日時 令和6年10月7日（月）
15:00～17:00
場所 気仙沼市ワンテン庁舎大ホール

今年度における取組事項

- ・ E-1 : 広域市場データ共有基盤
- ・ E-2 : 水産バリューチェーン研究会
- ・ E-3 : 気仙沼市魚市場のスマートフォン入札の導入支援

1. 報告 取組事項① E-1：広域市場データ共有基盤

1. 概要

各魚市場における入船情報・水揚げ情報のデジタル化

2. 目的・効果

1. 各漁協の負担軽減
2. 買受人による情報収集の効率化

3. 水産行政・研究データ基盤案

1. P25のとおり

4. 実施主体

1. 管理者：市、漁協
2. 利用者：魚市場関係者等
3. 仕様検討：漁協、協議会

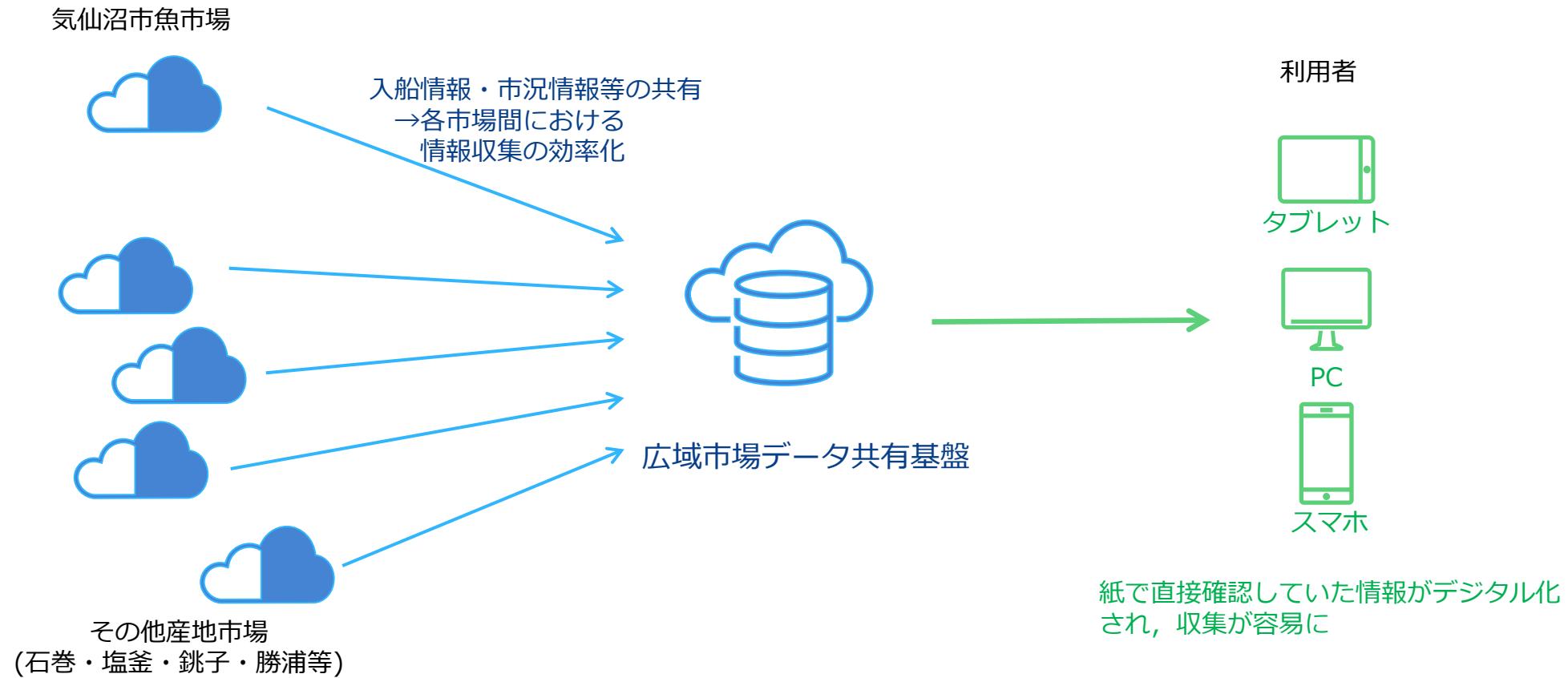
5. 実現に必要な要素

1. 各市場における入船情報等のデータ収集
2. データの共有に関するルール構築
3. 統一フォーマットの検討

6. 整備スケジュール案

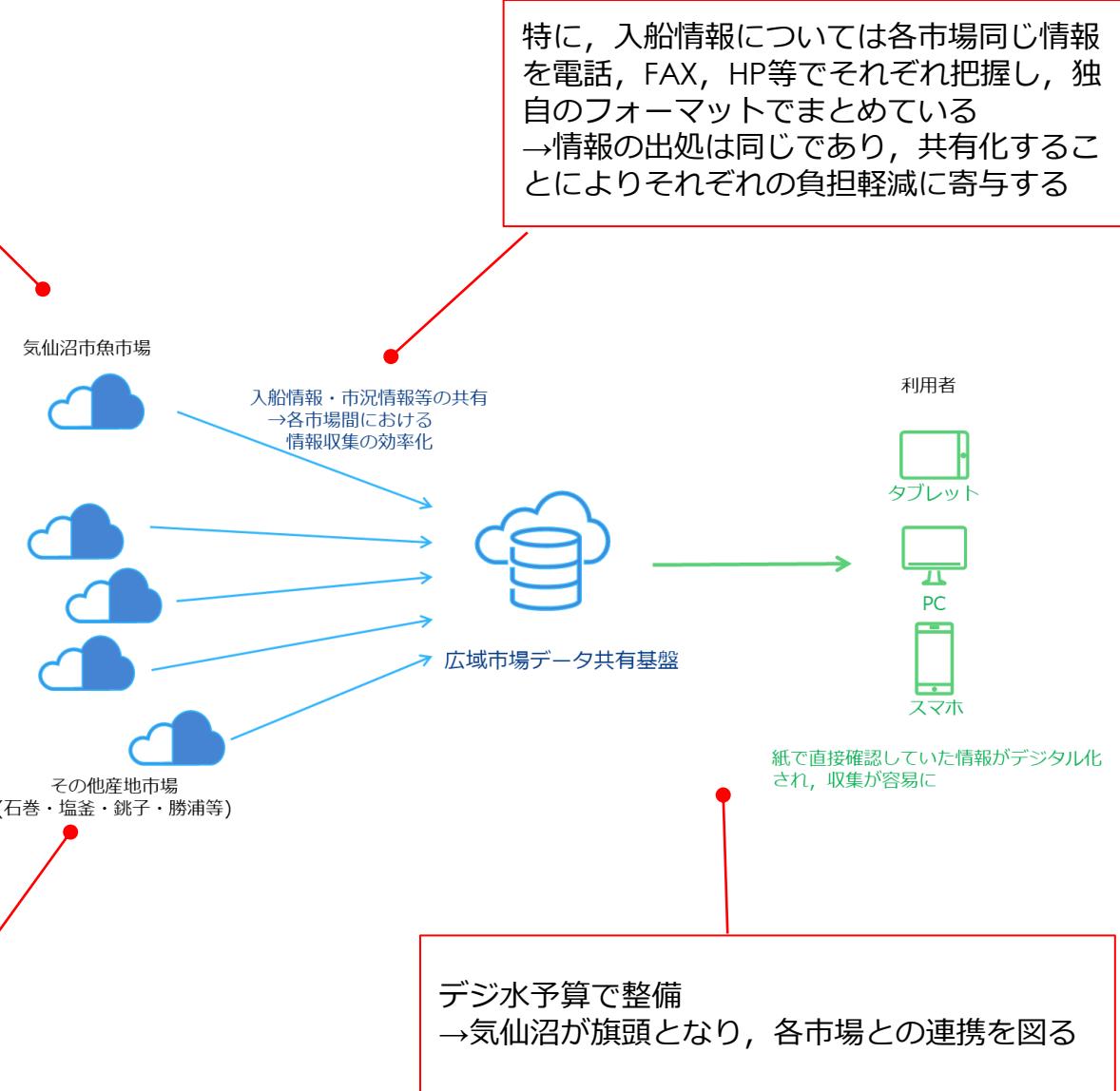
1. R6（一部実証まで）
 1. 関係者の基本合意
 2. 5に記載の情報収集
 3. 一部実証
2. R7以降（実装）
 1. 基本仕様構築
 2. ベンダー選定
 3. 実装フェーズへ

2. 報告 取組事項① E-1：広域市場データ共有基盤 整備イメージ



3. 報告 取組事項① E-1：広域市場データ共有基盤 実現に向けた備忘録

問屋→漁協→HP公表
までの作業プロセスを確認し、
省力化が可能な部分を探し、共
有基盤の整備と併せて適宜検討



各地入港船調										気仙沼漁市場
10月9日 04時現在										
気仙沼	繩①	めか	まか	吉切	塩	釜	繩③	ばち	だるま	とんぼ
		116	5	55t				104	180	22
釣⑨	かつお	185.5t	かつお新口	86.5t	・甚一丸			黒皮		19
					・8日昇丸 (MSC)					
					・83佐賀明神丸					
					・三幸丸					
					・安市丸	銚	子	繩①	ばち	だるま
					・光榮丸				56	めか
					・88佐賀明神丸					
					・竜喜丸 (MSC)					
					・23長久丸					
旋網①	かつお新口	30t	・33清勝丸		勝浦(房)			なし		
旋網①	道東いわし	180t	・85海幸丸							
女川	トロール・定置・小船									
石巻	定置							焼津	休市	
大船渡	旋網① 道東いわし	180t	・81海幸丸							
小名浜	休市							御前崎	釣① かつお	4.5t

4. 報告 取組事項② E-2：水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム

1. 概要

水産バリューチェーン研究会の実施

2. 目的・効果

1. 水産バリューチェーンの構築に向けた研究

2. 民間活動の誘発

3. 水産バリューチェーン研究会の取組

1. 外部講師招へい等によるビジネスモデルの調査・研究

2. 現地視察（消費地市場、その他バリューチェーン構築事例など）

4. スケジュール案

1. R6（研究）

2. R7～（要件定義）

5. 課題

1. 本市水産業における水産バリューチェーンのモデル検討

5. 報告 取組事項③ 気仙沼市魚市場のスマートフォン入札の導入支援

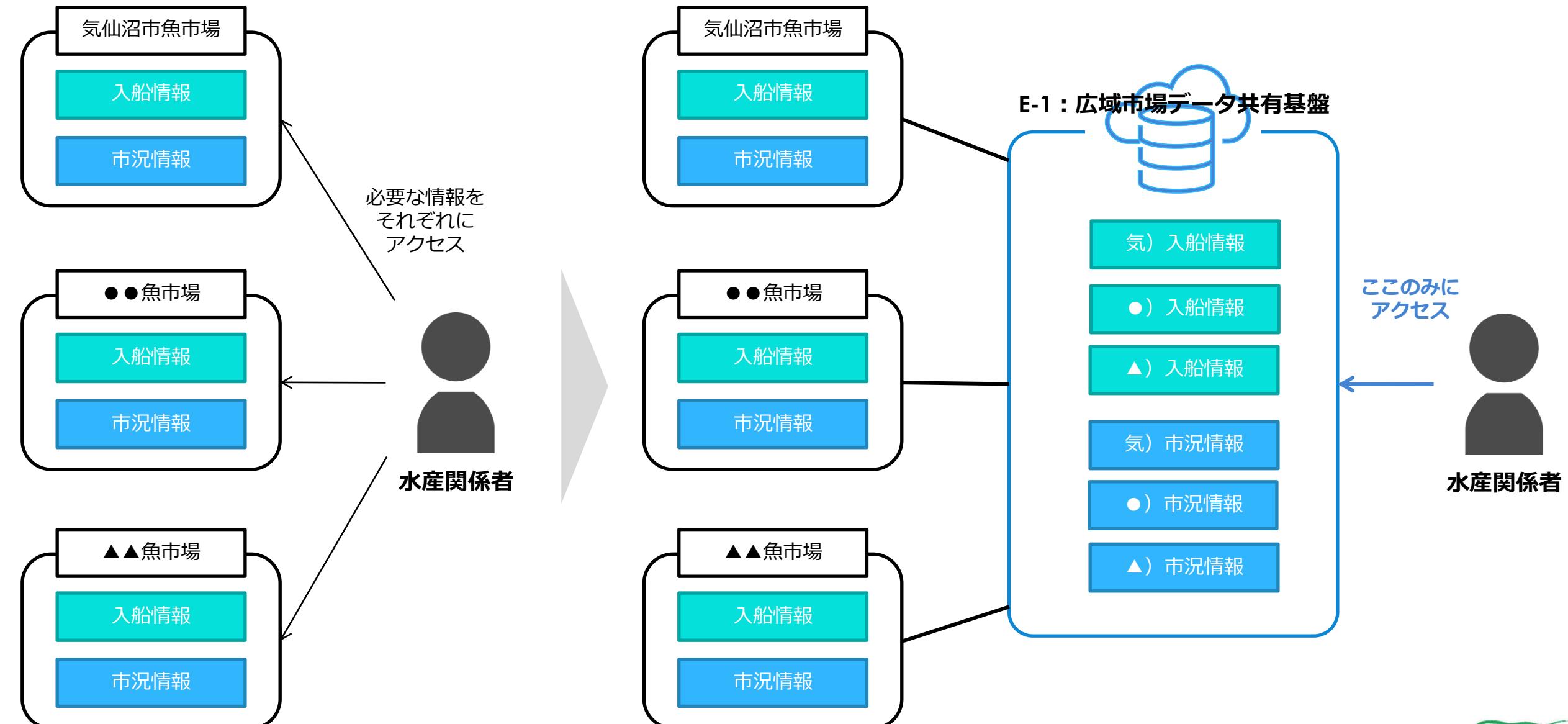
1. 概要
市魚市場におけるスマートフォンを利用した入札システムの導入
2. 目的・効果
1. 既存の入札システム更新
3. スケジュール案
1. R6年度 事例研究
2. R7年度～ 導入支援

今年度における事業計画①

- **E-1：広域市場データ共有基盤（NO. 6～28）**

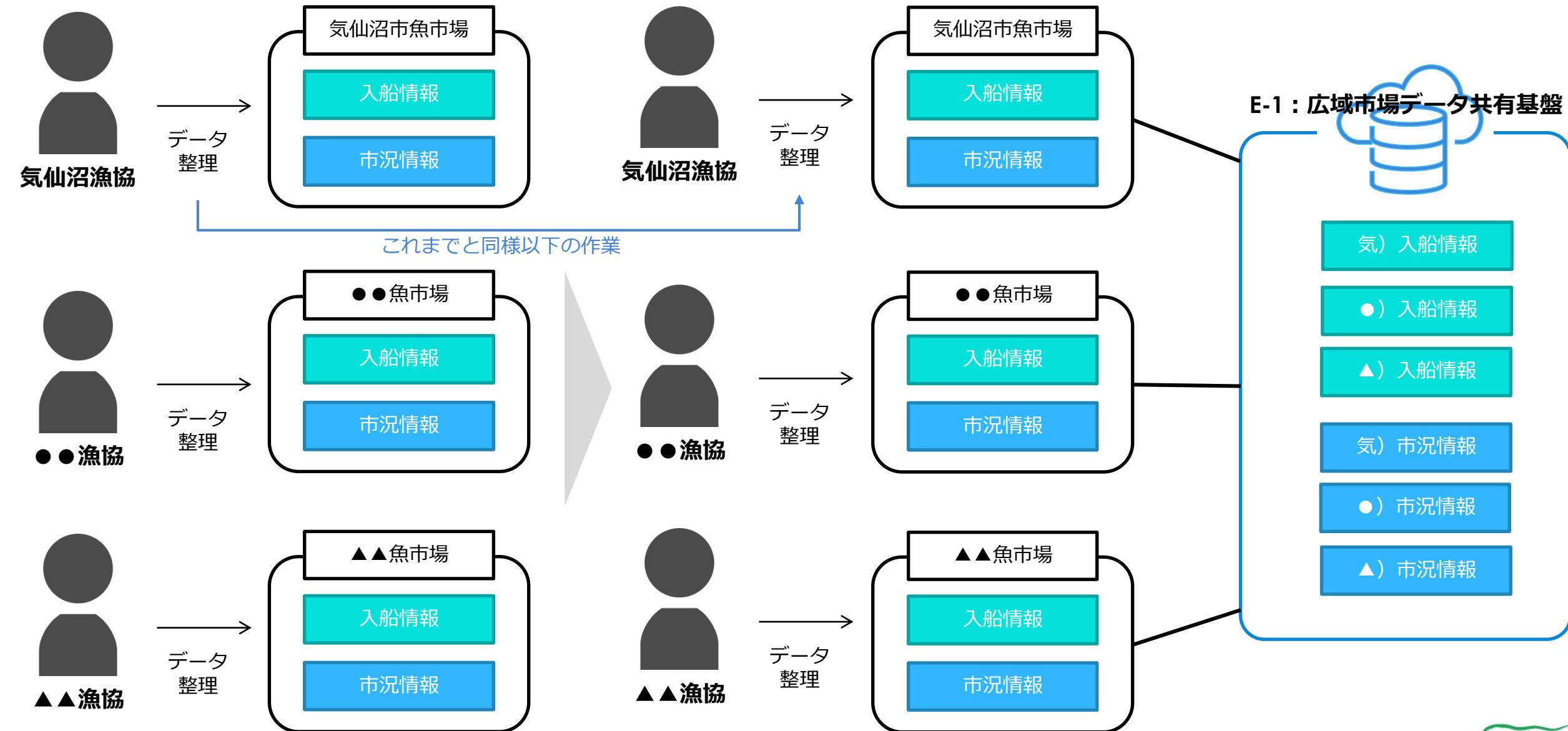
6. 協議 1 E-1：広域市場データ共有基盤の整備イメージ 利用者目線（ユーザー目線）

水産関係者にとっての情報収集が容易になるように。

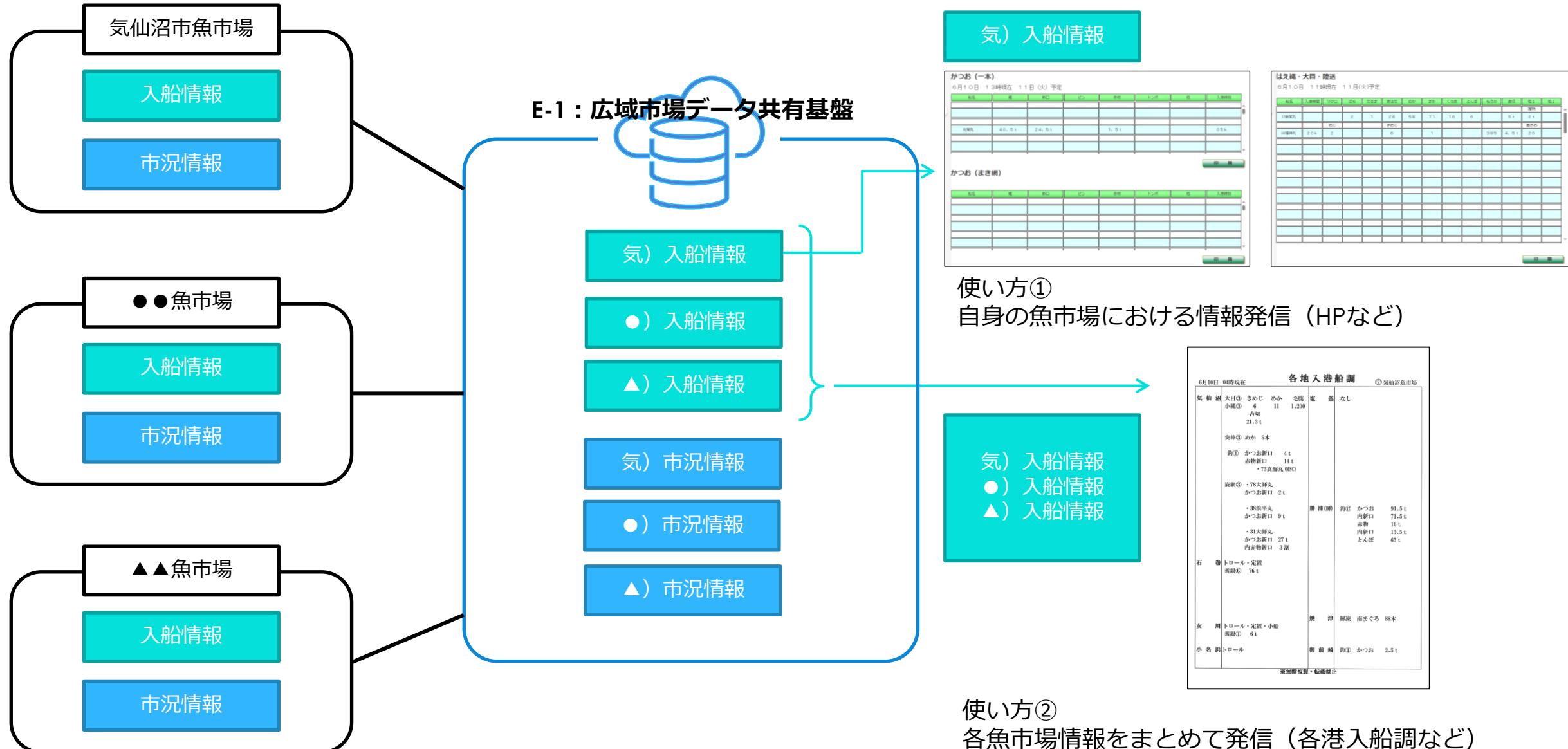


7. 協議 1 E-1：広域市場データ共有基盤の整備イメージ 管理者目線

漁協関係者にとっての情報入力の負担軽減となるように（新たな負担が生じないように）

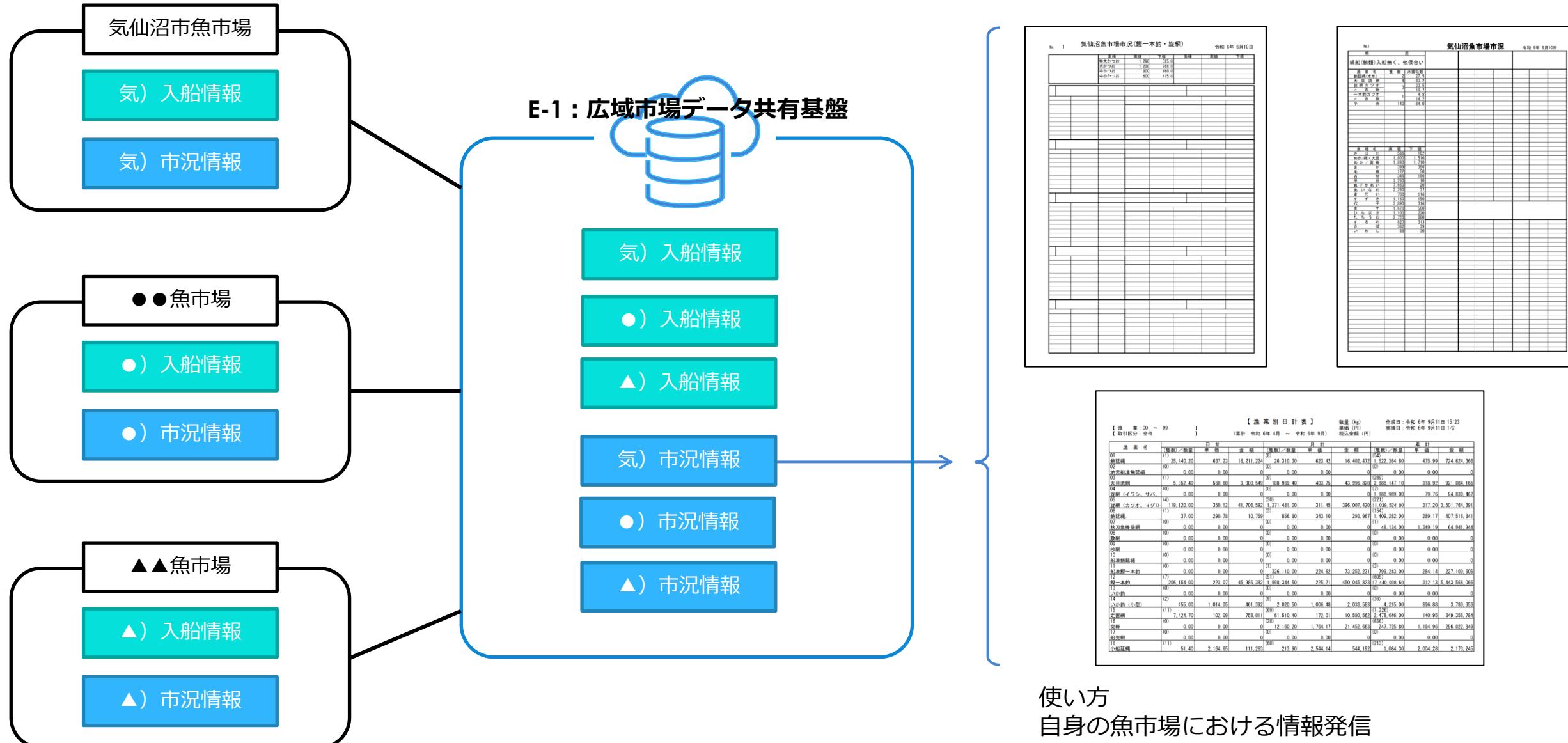


8. 協議 1 E-1：広域市場データ共有基盤の入船情報に対する使い方イメージ



※これまでの情報発信量が不足しないように

9. 協議 1 E-1：広域市場データ共有基盤の市況情報に対する使い方イメージ



10. 協議1 入船情報と市況情報の現況まとめ

入船情報		市況情報		
	発信する内容	発信する時間帯	発信する内容	発信する時間帯
インターネット	①入船情報（ホームページ） • はえ縄・大目・陸送 • かつお • さんま • まき網（青物） • 解凍販売予定 • 船凍船販売予定	前日午後～当日午前	⑤市況情報（ホームページ） • はえ縄 • かつお	当日午後～
魚市場場内 ・漁協窓口	②入船情報（紙面） • 漁業・魚種別 • 漁船別 ③各地入港船調	当日午前4時～	⑥市況情報（紙面） • はえ縄 • かつお ⑦他港の市況情報 • 大船渡魚市場 • 石巻魚市場 • 塩釜魚市場 • 小名浜魚市場 • 銚子魚市場 • 勝浦魚市場	当日午後～
漁協内部	④さんま入港調（※提供希望者のみ）	未把握		
市役所（水産課） への報告	②入船情報（紙面） ③各地入港船調	当日朝	⑧魚種別日計表 ⑨漁業種別日計表	当日午後～

はえ縄・大目・陸送

9月13日(金)予定

船名	入港時間	マグロ	ばち	だるま	きはだ	めか	まか	くろ皮	とんぼ	もうか	吉切	他1	他2
末廣丸				1	1						5 t		
23新生丸													
68日光丸						3	10				3 t		
58日番丸						8	6			120	0. 7 t		
陸送													
突棒(北海道)													
12隻						5 7							

印 刷

かつお (一本)

9月13日(金)予定

船名	轡	新口	ピン	赤物	トンボ	他	入港時刻
合計				赤物新口			
14隻	188.1 t	104.6 t		0.4 t			
8喜與丸(MSC)	19 t	8 t					22~23 h
三幸丸	25 t	5 t					23~24

印 刷

かつお (まき網)

9月13日(金)予定

船名	轡	新口	ピン	赤物	トンボ	他	入港時刻
31大師丸		30 t					04半~05 h

印 刷

さんま

9月13日(金)予定

船名	数量	入港時刻	備考
8太喜丸	37t	13日09h	

まき網（青物）

船名	魚種	数量	入港時刻	備考

解凍販売予定

9月12日 (木) 予定

令和 6 年 9 月 10 日(火) 水揚げ

漁業別		隻数		魚種				
延縄	隻	鮪	本	吉切	0.5 t	冷鰹		t
小型延縄	隻	目鉢	本	鰹	釣 128.5 t	冷マ力		t
				巻新口 293 t				
大目	隻	ダルマ	本	サンマ	t	冷シイラ		t
小型大目	2 隻	黄肌	本	シイラ	本	メジ		
鰹一本釣	5 隻	メカ	35 本	金鯛	本	キメジ		
巻網	5 隻	マカ	36 本	鰯	t	巻赤物		
秋刀魚	隻	黒皮	5 本	鰯	t	釣りかづ 赤物	0.1 t +若干	
突き棒	隻	トンボ	釣 t	イカ	c/s	釣りかづ 内新口	12 t	
	隻	毛鹿	8.9 本	その他		巻鰯かづ 内赤物	若干	
	隻	勝サメ	0.5 t	雑		巻鰯かづ 内小キハダ	約19.4 t	

気仙沼市魚市場水揚日報

令和 6 年 9 月 10 日

係員 旧姓 菅原 彰
新姓 造藤 優士

船宿	船名	漁業別	船籍	鰯	目録	ダルマ	キハダ	メカ	マカ	黒皮	トンボ	毛鹿	吉切	勝サメ
〇	18瀬濱丸	櫻大目	M G						20	26	5	54	0.5	0.5 t
〇	19菊丸	櫻大目	IT						15	10	10	35	20	本
				カツオ カツオ	赤物									
田	3神徳丸	一本釣	M Z	17										
田	8三代丸MSC	一本釣	M Z	14	1.5									
田	21愛宕丸MSC	一本釣	M Z	20	0.5	77.7	77.7							
田	73直海丸MSC	一本釣	M Z	41.5	2.5	若干								
田	88福德丸	一本釣	M Z	36	7.5	0.1								
				カツオ 新口	内赤物	内赤物								
二	清月秀丸	巻網	M E	50						1.5				
田	17恋寶丸	巻網	AM	25	若干									
田	28浜平丸	巻網	SO	112						1.5	(約11.2)			
笠	17大師丸	巻網	SO	90	若干									
田	16恋寶丸	巻網	AM	16						2.5	(約3.2)			

各地入港船調						
9月10日 04時現在 気仙沼魚市場						
気仙沼	大目② めか 35 毛鹿 89	まか 36 吉切 0.5 t	黒皮 5	塩 釜	なし	
	突棒⑥ めか	23本				
	釣⑤ かつお 内新口 赤物	128.5 t 12 t 0.1 t				
	旋網⑤ かつお新口 (きはだ混り)	293 t				
			勝浦(房)	旋網① かつお新口 赤物新口	8 t 2 t	
				・11大師丸		
石巻	トロール・定置		焼津	解凍 南まぐろ	91本	
女川	トロール・定置・小船					
小名浜	なし		御前崎	休市		

※無断複製・転載禁止

12月7日(木) さんま入港予定

気仙沼魚市場調べ 4:00現在

気仙沼	女川	大船渡	釜石	宮古	花咲
大型 8隻 87.5t 小型	大型 6隻 79.0t 小型	大型 10隻 85.4t 小型 0隻	大型 0隻 0.0t 小型	大型 0隻 0.0t 小型	大型 0隻 0.0t 小型
88幸福丸 9.5t 35豊進丸 5.0t 1恵比須丸 8.0t 68福神丸 13.0t 11光洋丸 7.0t 8太喜丸 19.0t 3太喜丸 12.5t 5太喜丸 13.5t	28安洋丸 8.5t 21権栄丸 19.0t 2源栄丸 13.5t 11権栄丸 11.0t 3鹿島丸 15.0t 8千代丸 12.0t	1太幸丸 4.5t 38福吉丸 7.0t 81北星丸 10.0t 8若潮丸 13.0t 3三笠丸 5.5t 8三笠丸 5.7t 11三笠丸 8.2t 15三笠丸 7.0t 18三笠丸 14.5t 38千代丸 10.0t	ナシ	ナシ	ナシ
		銚子		小名浜	
		大型 0隻 0.0t	大型 2隻 20.5t		
		38廣運丸 12.0t 15庄光丸 8.5t		厚岸	
		大型 0隻 0.0t			

※天候・入港時間等により変更される場合があります

氣仙沼魚市場市況

令和 6年 9月11日

氣仙沼魚市場市況(鰹一本釣・旋網)

令和 6年 9月11日

No.1 氷仙沼魚市場市況

令和 6年 9月11日

※金額=税抜き

氣仙沼魚市場市況(鰹一本釣・旋網)

令和 6年 9月11日

		魚種		高値	下値	魚種		高値	下値
		数量	平均値(円)	600	155.0	数量	平均値(円)	600	155.0
船名	7 8 福徳丸	船籍	船舶総トン数	数量(kg)		水揚金額(円)		平均(円)	
	MZ	119	33,418.0	5,663,976		16		2,3	
魚種		数量		平均値(円)		かつお区分		数量	
かつお	32,514.0	166	規格	65.0	570	数量	662.0	190	-
(^{ヒン・サク} 除)	(31,956.0)	(167)	特大	65.0	570	数量	662.0	190	-
ひんなが			特大 2 / 3	-	-	数量	662.0	190	-
ばち			大	249.0	500	数量	2,038.0	240	-
だるま	705.0	298	中	105.0	240	数量	11,728.0	168	- 158
きはだ			中小	-	-	数量	16,626.0	161	- 155
きめじ	195.0	209	小	-	-	数量	205.0	145	-
しいら	4.0	20	その他	14.0	220	数量	822.0	150	- 100
その他			計	433.0	437	数量	32,081.0	163	-
船名	光榮丸	船籍	船舶総トン数	数量(kg)		水揚金額(円)		平均(円)	
		ME	156	38,178.5		7,259,398		19	
魚種		数量		平均値(円)		かつお区分		数量	
かつお	37,940.5	190	規格	495.0	464	数量	511.0	160	-
(^{ヒン・サク} 除)	(37,423.5)	(191)	特大	495.0	464	数量	6.0	175	-
ひんなが			特大 2 / 3	6.0	175	数量	6.0	175	-
ばち			大	2,223.0	453	数量	2,140.0	220	- 180
だるま	151.0	200	中	5,596.0	281	数量	15,136.0	171	- 151
きはだ			中小	440.5	158	数量	10,527.0	156	- 155
きめじ	87.0	203	小	-	-	数量	54.0	116	-
しいら			その他	123.0	245	数量	693.0	151	-
その他			計	8,873.5	294	数量	29,067.0	158	-
船名	1 1 福栄丸	船籍	船舶総トン数	数量(kg)		水揚金額(円)		平均(円)	
		SO	110	21,946.0		4,727,543		21	
魚種		数量		平均値(円)		かつお区分		数量	
かつお	21,246.0	221	規格	1,400.0	567	数量	523	数量	単価(円)
(^{ヒン・サク} 除)	(21,039.0)	(221)	特大	42.0	219	数量	-	数量	-
ひんなが			特大 2 / 3	-	-	数量	-	数量	-
ばち			大	1,532.0	567	数量	557	数量	160
だるま	44.0	191	中	1,896.0	300	数量	280	数量	280
きはだ			中小	239.5	161	数量	272.5	数量	161
きめじ	602.0	50	小	79.0	121	数量	-	数量	-
しいら	54.0	20	その他	195.0	281	数量	160	数量	153
その他			計	5,383.5	417	数量	15,862.5	154	-
船名	1 仙昌丸	船籍	船舶総トン数	数量(kg)		水揚金額(円)		平均(円)	
		ME	120	26,806.0		4,632,598		17	
魚種		数量		平均値(円)		かつお区分		数量	
かつお	26,314.0	172	規格	1,386.0	193	数量	-	数量	単価(円)
(^{ヒン・サク} 除)	(26,240.0)	(172)	特大	438.0	160	数量	-	数量	-
ひんなが			特大 2 / 3	-	-	数量	-	数量	-
ばち			大	1,599.0	353	数量	303	数量	-
だるま	403.0	212	中	2,202.0	231	数量	-	数量	-
きはだ			中小	-	-	数量	-	数量	-
きめじ	71.0	206	小	56.0	154	数量	-	数量	-
しいら	18.0	20	その他	136.0	170	数量	155	数量	154
その他			計	5,817.0	236	数量	20,497.0	154	-
船名	8 佐賀明神丸	船籍	船舶総トン数	数量(kg)		水揚金額(円)		平均(円)	
		KO	147	48,576.0		9,130,967		18	
魚種		数量		平均値(円)		かつお区分		数量	
かつお	47,825.0	187	規格	478.0	600	数量	966.0	179	- 158
(^{ヒン・サク} 除)	(47,250.0)	(187)	特大	-	-	数量	32.0	155	-
ひんなが			特大 2 / 3	-	-	数量	-	数量	-
ばち	64.0	490	大	2,122.0	600	数量	1,715.0	175	- 155
だるま	261.0	255	中	2,770.0	300	数量	14,279.0	154	-
きはだ			中小	313.5	181	数量	23,906.5	154	-
きめじ	426.0	216	小	-	-	数量	122.0	126	-
しいら			その他	214.0	153	数量	907.0	153	- 155
その他			計	5,897.5	414	数量	41,927.5	155	-

20. 協議1 ⑦他港の市況情報 左：塩釜 右：小名浜

市況情報

塩釜魚市場旋網市況 (税抜)

本日水揚船 1隻 水揚日 令和 6年 6月 18~19日

船名	NO.17 惣寶丸 (本船 88号)					
	本数	日退	数量	高値	安値	平均
本船	1,095	54.0	59,182.0	3,000	1,400	1,687
				高値	安値	高値
				特大		
				大		
				中		
				中小		
				小		
				小小		
				極小		
				2号		
				キズ		
				込		

船名	NO.丸 (本船号)					
	本数	日退	数量	高値	安値	平均
				高値	安値	高値
				特大		
				大		
				中		
				中小		
				小		
				小小		
				極小		
				2号		
				キズ		
				込		

船名	NO.丸 (本船号)					
	本数	日退	数量	高値	安値	平均
				高値	安値	高値
				特大		
				大		
				中		
				中小		
				小		
				小小		
				極小		
				2号		
				キズ		
				込		

TEL 022-362-2311
FAX 367-2991

小名浜魚市場鰹市況 令和 6年 6月 20日

2024 06/20 09:01 FAX 0246547040 0001/0001

船名	22寿和丸		本船	北勝丸		数量	1,758 Kg 平均	
	魚種	数量 (Kg)		高値	下値		金額	2,505,400円 1,425.1
マグロ	42本	1,758.0	1500	1400	1,425.1	41.9K	新口	高値
							特特大	
							特大	
							大	
							中	
							中小	
							小	
							小々	
							前日	
							特大	
							大	
							中	
							中小	
							小	
							小々	

船名	本船					
	魚種	数量 (Kg)	高値	下値	平均	目録
						錨泊場
						新口
						高値
						特特大
						特大
						大
						中
						中小
						小
						小々
						前日
						特大
						大
						中
						中小
						小
						小々

2 1. 協議 1 ⑦他港の市況情報 左：銚子 右：勝浦

市況情報

勝浦魚市場 市況(鮮)

From 水揚日: 2024/06/21 10:09 #479 P 001/003

To 水揚場

2024/06/21 10:09 #479 P 001/003

6/21 9:57 P 01/03

水揚明細 (No. 1)

水揚日: 2024年06月21日

船名	数量(kg)	元上値(円)	平均値(円)
喜生丸	8,365.8	2,239,618	267.7

(1)									
魚種	数量(kg)	平均価(m)	規格	数量(kg)	単価(m)	数量(kg)	平均価(m)	数量(kg)	単価(m)
かつお	8,231.0	267.7	特待大						
シラ	3.9	35.1	特々大	33.7	279				
ソウダ醸	1.4	10.0	特 大	55.0	279				
ちやっこ	129.5	279.4	大	177.6	350-333				
			大 中	1,611.7	317-302				
			中 小	4,155.5	296-282				
			小	1,876.0	221-219				
			小々	87.0	135				
			極 小						
			極々小						
			計	8,095.5	270.0				

船名	数量(kg)	元上値(円)	平均値(円)
第2弘谷丸	4,846.4	1,310,046	270.3

(2)									
魚種	数量(kg)	平均価(m)	規格	数量(kg)	単価(m)	数量(kg)	平均価(m)	数量(kg)	単価(m)
かつお	4,817.1	270.8	特待大	25.1	321				
シラ	7.0	37.0	特々大	202.0	273				
煮えじ	9.1	339.0	特 大	503.0	303				
ソウダ醸	3.9	25.1	大	459.0	296				
ちやっこ	9.3	250.0	大 中	913.0	315-300				
			中 小	991.3	294-280				
			小	1,323.0	263-250				
			小々	266.0	158-150				
			極 小	1.3	120				
			極々小						
			計	4,677.7	275.0				

船名	数量(kg)	元上値(円)	平均値(円)
漁新丸	6,133.9	1,652,417	269.4

(3)									
魚種	数量(kg)	平均価(m)	規格	数量(kg)	単価(m)	数量(kg)	平均価(m)	数量(kg)	単価(m)
かつお	5,688.3	269.3	特待大						
シラ	3.8	37.9	特々大	24.0	269				
煮えじ	37.4	339.0	特 大	108.0	313				
ソウダ醸	26.4	43.0	大	187.0	313				
ちやっこ	378.0	281.4	大 中	945.0	329-313				
			中 小	1,420.0	294-280				
			小	2,419.5	264-251				
			小々	432.0	166				
			極 小						
			極々小						
			計	5,545.5	273.7				

船名	数量(kg)	元上値(円)	平均値(円)
第18裕喜丸	4,548.9	1,236,935	271.9

(4)									
魚種	数量(kg)	平均価(m)	規格	数量(kg)	単価(m)	数量(kg)	平均価(m)	数量(kg)	単価(m)
かつお	4,228.1	255.6	特待大	67.0	261	48.0	191		
煮えじ	284.2	465.5	特々大	443.0	308-293	119.0	229		
ワタナベ	4.9	2,421.0	特 大	533.0	263-250	276.5	251-239		
フッコウ	1.0	400.0	大	541.0	270	187.0	256		
沖ブリ	14.9	211.0	大 中	857.0	290	237.0	200		
ちやっこ	15.8	269.5	中 小	415.0	280	64.1	201		
			小	191.0	225	14.6	140		
			小々	27.0	150	8.1	130		
			極 小						
			極々小						
			計	3,074.9	275.3	956.3	224.1		

※統合割引数量・単価には、アゴ、キス等は含まれておらずません。

勝浦魚場共同組合

21. 協議1 ⑧魚種別日計表1／2

市況情報

【魚種別日計表】			数量(kg)			作成日: 令和6年9月12日 15:32		
【取引区分: 全件】			単価(円)			実績日: 令和6年9月12日 1/4		
			(累計 令和6年4月 ~ 令和6年9月)			税込金額(円)		
魚種名	日計 数量	単価	金額	月計 数量	単価	金額	累計 数量	単価
00005 ばち	795.00	1,381.50	1,098,296	2,470.90	1,281.71	3,166,981	30,136.30	1,193.08
00006 だるま	6,335.50	469.43	2,974,089	24,675.30	428.94	10,584,262	812,020.00	368.42
00007 きはだ	518.80	544.11	282,283	65,013.80	942.87	61,299,775	171,574.60	765.25
00008 きめじ	1,721.50	185.26	318,932	38,818.50	242.95	9,431,079	203,498.20	390.31
分類計	9,370.80	498.74	4,673,600	0.00	0.00	0	0.00	0.00
01001 めか	11,725.40	1,037.92	12,170,058	47,841.00	1,464.94	70,084,048	833,101.80	1,329.92
01003 まか	1,111.60	409.56	455,271	5,476.80	581.19	3,183,063	81,348.20	553.88
01005 黒皮	148.60	285.62	42,443	3,140.00	431.68	1,355,478	13,479.60	360.60
分類計	12,985.60	975.52	12,667,772	0.00	0.00	0	0.00	0.00
04001 しいら	837.70	19.03	15,943	2,426.90	32.38	78,584	134,109.90	95.25
分類計	837.70	19.03	15,943	0.00	0.00	0	0.00	0.00
05001 金鯛	26.20	10.80	283	84.20	115.70	9,742	3,217.00	129.44
分類計	26.20	10.80	283	0.00	0.00	0	0.00	0.00
06011 その他さめ	1,732.00	100.22	173,581	14,977.20	186.40	2,791,749	284,933.50	181.52
分類計	1,732.00	100.22	173,581	0.00	0.00	0	0.00	0.00
07001 吉切	21,842.00	408.89	8,931,028	40,736.00	399.23	16,263,033	2,388,741.50	346.10
分類計	21,842.00	408.89	8,931,028	0.00	0.00	0	0.00	0.00
08001 毛鹿さめ	1,002.00	122.24	122,483	78,266.00	211.95	16,588,460	2,466,454.00	187.22

【魚種別日計表】			数量(kg)			作成日: 令和6年9月12日 15:32		
【取引区分: 全件】			単価(円)			実績日: 令和6年9月12日 2/4		
			(累計 令和6年4月 ~ 令和6年9月)			税込金額(円)		
魚種名	日計 数量	単価	金額	月計 数量	単価	金額	累計 数量	単価
09001 分類計	1,002.00	122.24	122,483	0.00	0.00	0	0.00	0.00
10001 かつお	377,955.00	244.69	92,481,270	3,850,948.50	242.25	932,909,834	24,688,204.30	283.78
10001 分類計	377,955.00	244.69	92,481,270	0.00	0.00	0	0.00	0.00
11001 ぶり	1,117.20	486.50	543,516	7,777.30	163.64	1,272,658	332,293.50	200.51
12001 鯛	6.30	1,111.43	7,002	522.00	627.67	327,645	68,593.70	371.34
13001 いわし	6.30	1,111.43	7,002	0.00	0.00	0	0.00	0.00
14001 分類計	898.20	16.07	14,430	3,284.00	44.71	146,813	2,220,632.20	73.83
14001 さば	9,450.40	110.68	1,045,966	33,755.00	111.30	3,756,965	726,039.50	91.59
15001 分類計	9,450.40	110.68	1,045,966	0.00	0.00	0	0.00	0.00
16002 ヒラメ	43.30	2,270.28	98,303	460.90	2,266.18	1,044,481	37,666.50	712.86
17002 分類計	43.30	2,270.28	98,303	0.00	0.00	0	0.00	0.00
18001 真子がれい	0.00	0.00	1,438	3.60	2,729.72	9,827	3,025.90	1,262.59
18020 その他のかれい	0.00	0.00	1,112	14.00	1,081.14	15,136	563.90	685.57
19001 分類計	0.00	0.00	2,550	0.00	0.00	0	0.00	0.00
20001 すずき	4.00	2,129.75	8,519	83.40	2,273.68	189,625	10,429.50	953.82
20001 分類計	4.00	2,129.75	8,519	0.00	0.00	0	0.00	0.00

【魚種別日計表】

魚種名	日計			月計			累計		
	数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
21002 どんこ	5.00	328.40	1,642	25.00	373.64	9,341	2,046.20	294.30	602,189
分類計	5.00	328.40	1,642	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0
25001 吉次	0.00	0.00	832	7.50	3,984.27	29,882	46.10	2,087.81	96,248
分類計	0.00	0.00	832	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0
27001 あじ	1,334.60	68.57	91,520	12,425.90	92.78	1,152,822	87,837.30	137.44	12,072,438
分類計	1,334.60	68.57	91,520	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0
31001 あなご	254.40	1,495.67	380,499	1,295.40	1,565.36	2,027,765	19,114.80	1,729.74	33,063,553
分類計	254.40	1,495.67	380,499	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0
32013 ぎはぎ	23.90	688.12	16,446	40.90	754.40	30,855	8,300.80	473.67	3,931,852
分類計	23.90	688.12	16,446	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0
33001 するめいか	556.70	1,040.38	579,177	2,638.30	1,005.02	2,651,557	39,282.40	468.02	18,384,943
33008 その他のいか	50.30	727.77	36,607	312.70	1,102.20	344,658	30,681.20	1,060.04	32,523,165
分類計	607.00	1,014.47	615,784	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0
35001 たこ	621.10	1,380.97	857,721	9,391.20	1,495.93	14,048,566	29,694.80	1,437.35	42,681,768
分類計	621.10	1,380.97	857,721	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0
36001 かに	11.40	857.19	9,772	115.60	901.91	104,261	13,712.60	3,119.82	42,780,881
分類計	11.40	857.19	9,772	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0
37001 えび	13.10	1,930.92	25,295	73.10	1,667.76	121,913	987.00	2,166.02	2,137,859

【魚種別日計表】

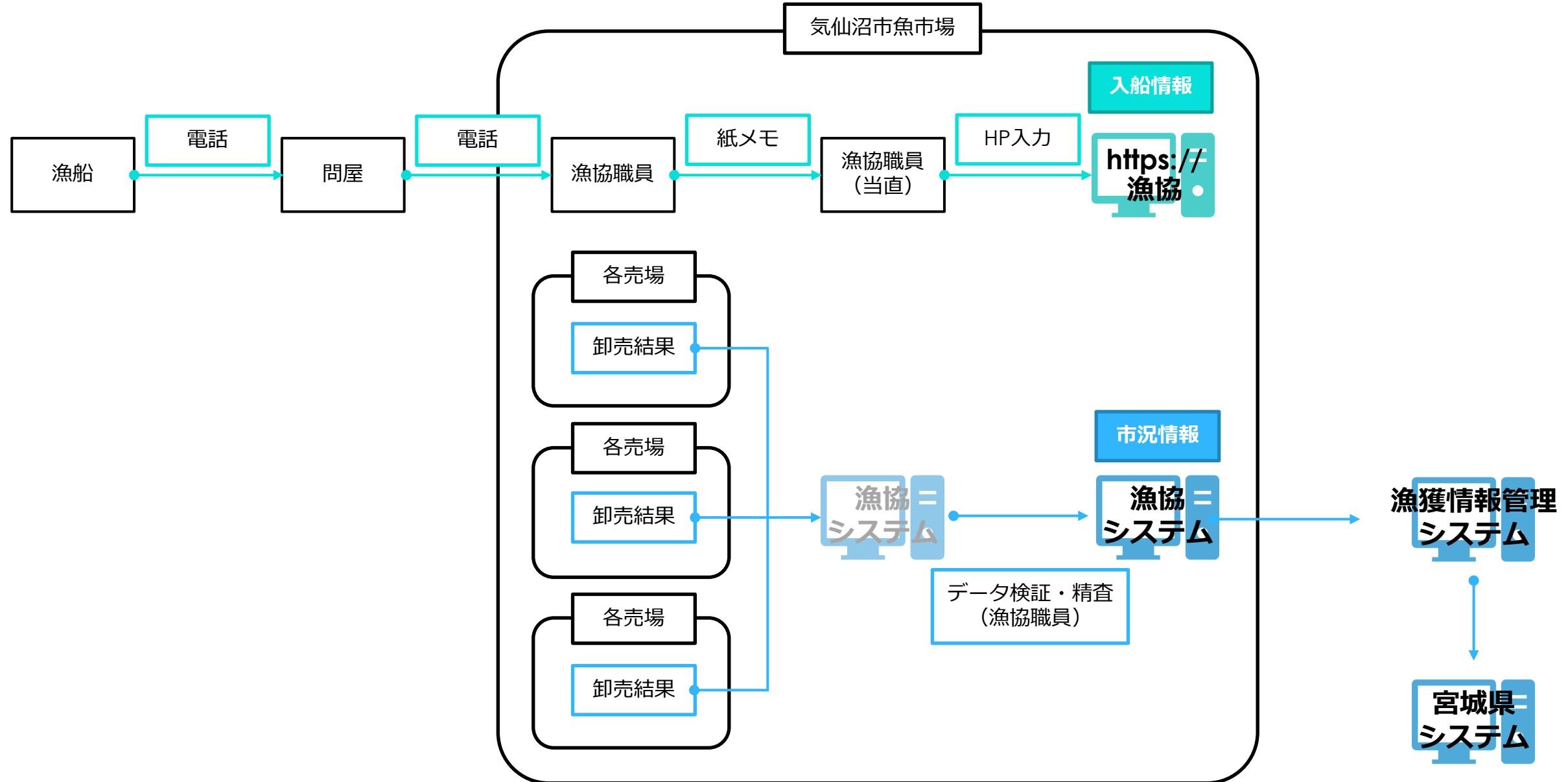
23. 協議 1 ⑨漁業種別日計表

市況情報

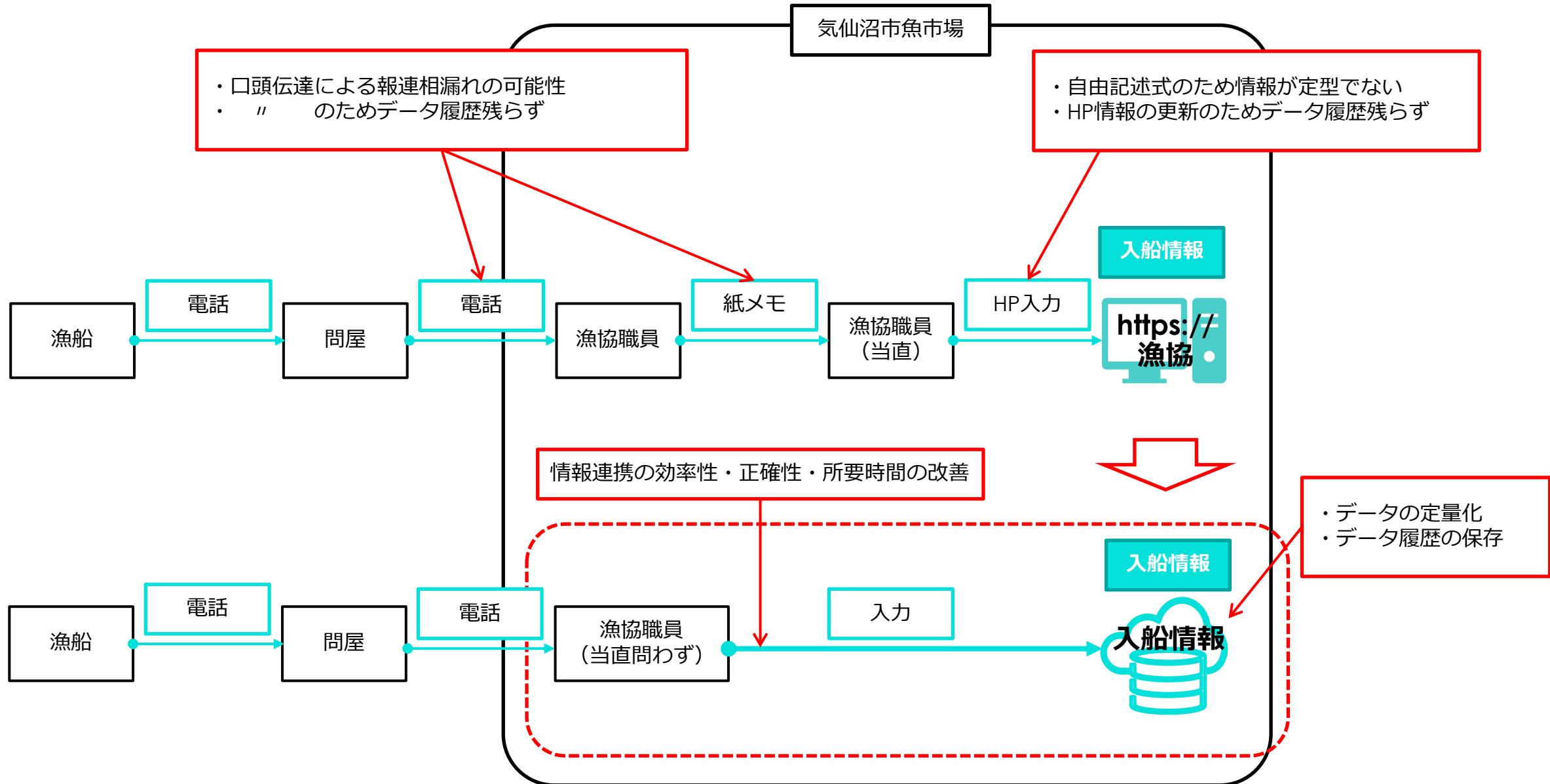
漁業名	日計			月計			累計			
	(隻数) / 数量	単価	金額	(隻数) / 数量	単価	金額	(隻数) / 数量	単価	金額	
01 鮪延縄	(1)	38,552.60	597.08	23,019.149	64,862.90	607.77	39,421.621	1,560,917.40	478.98 747,643.515	
02 地元船凍鮪延縄	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00 0	
03 大目流網	(0)	0.00	0.00	0	108,969.40	403.75	43,996.820	2,888,147.10	318.92 921,084.166	
04 旋網（イワシ、サバ、	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	1,188,989.00	79.76 94,830.467	
05 旋網（カツオ、マグロ）	(1)	49,411.50	311.68	15,400.660	1,320,892.50	311.46	411,408.080	11,088,935.50	317.18 3,517,165.051	
06 鮪延縄	(0)	0.00	0.00	0	856.80	343.10	293,967	1,409,282.00	289.17 407,516.841	
07 秋刀魚棒受網	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	48,134.00	1,349.19 64,941.944	
08 敷網	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00 0	
09 抄網	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00 0	
10 船凍鮪延縄	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00 0	
11 船凍鰹一本釣	(0)	0.00	0.00	0	326,110.00	224.62	73,252.231	799,243.00	284.14 227,100.605	
12 鰹一本釣	(12)	337,213.50	239.13	80,637,578	(63)	2,335,558.00	227.22	530,683.401	(617) 17,777,222.00	310.75 5,524,203.644
13 いか釣	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00 0	
14 いか釣（小型）	(2)	551.00	1,042.34	574,327	2,571.50	1,014.16	2,607,910	4,766.00	913.70 4,354,680	
15 定置網	(11)	17,081.00	145.37	2,482,999	(80)	78,591.40	166.22	13,063,561	(1,237) 2,495,727.00	140.98 351,841,783
16 突棒	(0)	0.00	0.00	0	12,160.20	1,764.17	21,452,663	(636) 247,725.80	1,194.96 296,022,849	
17 船曳網	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00 0	
18 小船延縄	(10)	25.30	3,162.65	80,015	(70)	239.20	2,609.56	624,207	(223) 1,109.60	2,030.70 2,253,260

漁業名	日計			月計			累計			
	(隻数) / 数量	単価	金額	(隻数) / 数量	単価	金額	(隻数) / 数量	単価	金額	
19 沖合底曳網（陸送）	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00 0	
71 倉出	(1)	50.80	1,484.06	75,390	111.60	1,481.35	165,319	1,068.70	1,413.26 1,510,355	
79 陸送 I	(0)	0.00	0.00	0	1,886.00	1,611.80	3,039,854	128,723.30	1,592.72 205,020,301	
80 陸送 II	(21)	250.70	1,274.42	319,497	2,717.70	1,707.63	4,640,826	(2,293) 63,380.40	1,118.50 70,891,136	
81 空輸	(0)	0.00	0.00	0	1,245.90	1,618.79	2,016,852	35,312.40	1,529.39 54,006,560	
90 養殖	(0)	0.00	0.00	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00 0	
98 その他	(94)	852.00	1,393.01	1,186,844	14,000.10	1,454.79	20,367,258	158,631.20	1,407.28 223,238,714	
総合計	(153)	443,988.40	278.78	123,776,459	(1,325)	4,270,773.20	273.26	1,167,034,570	(13,331) 39,897,314.40	318.66 12,713,625,871

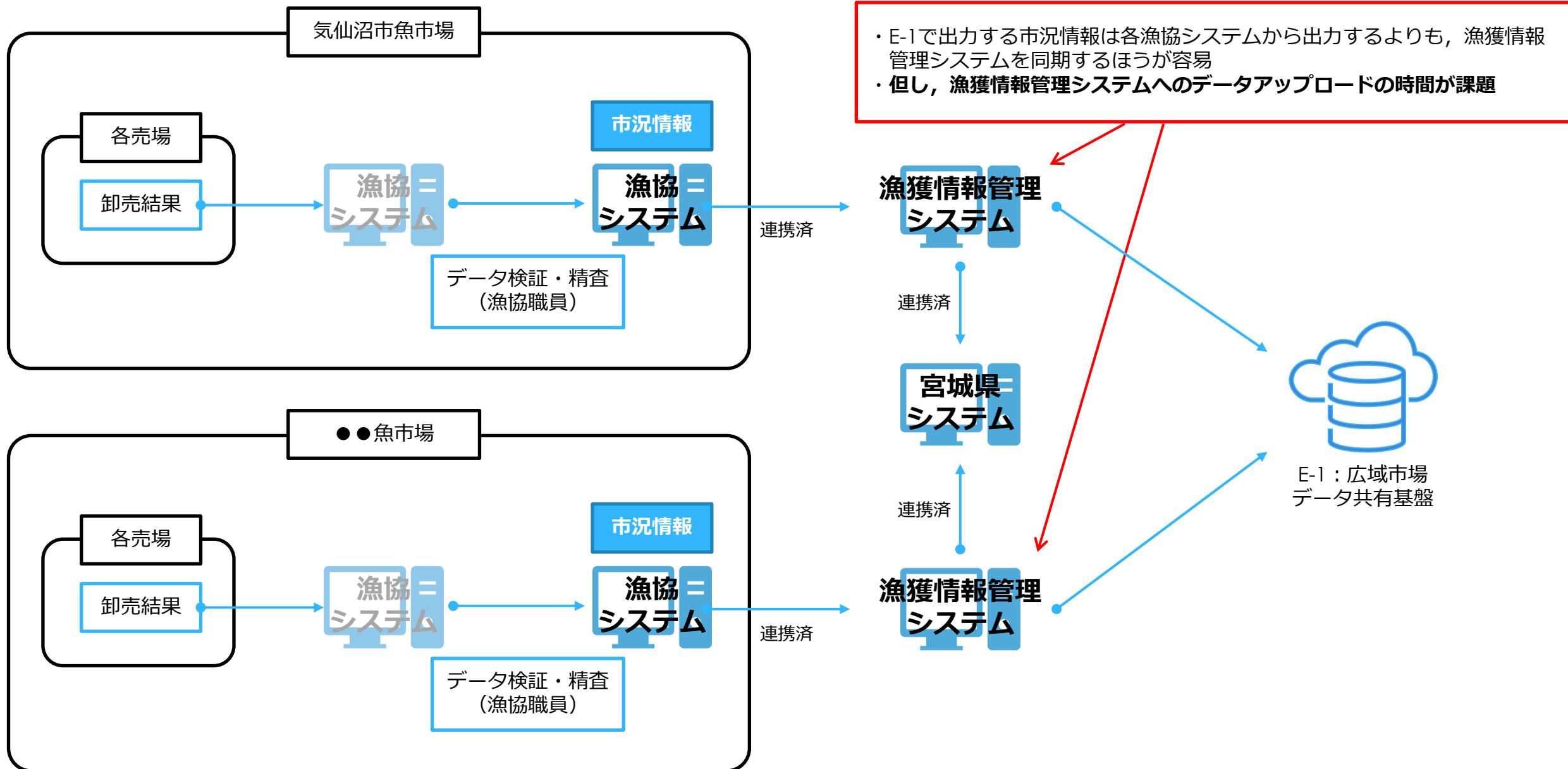
24. 協議1 気仙沼市魚市場における入船情報・市況情報に係る情報連携の内層



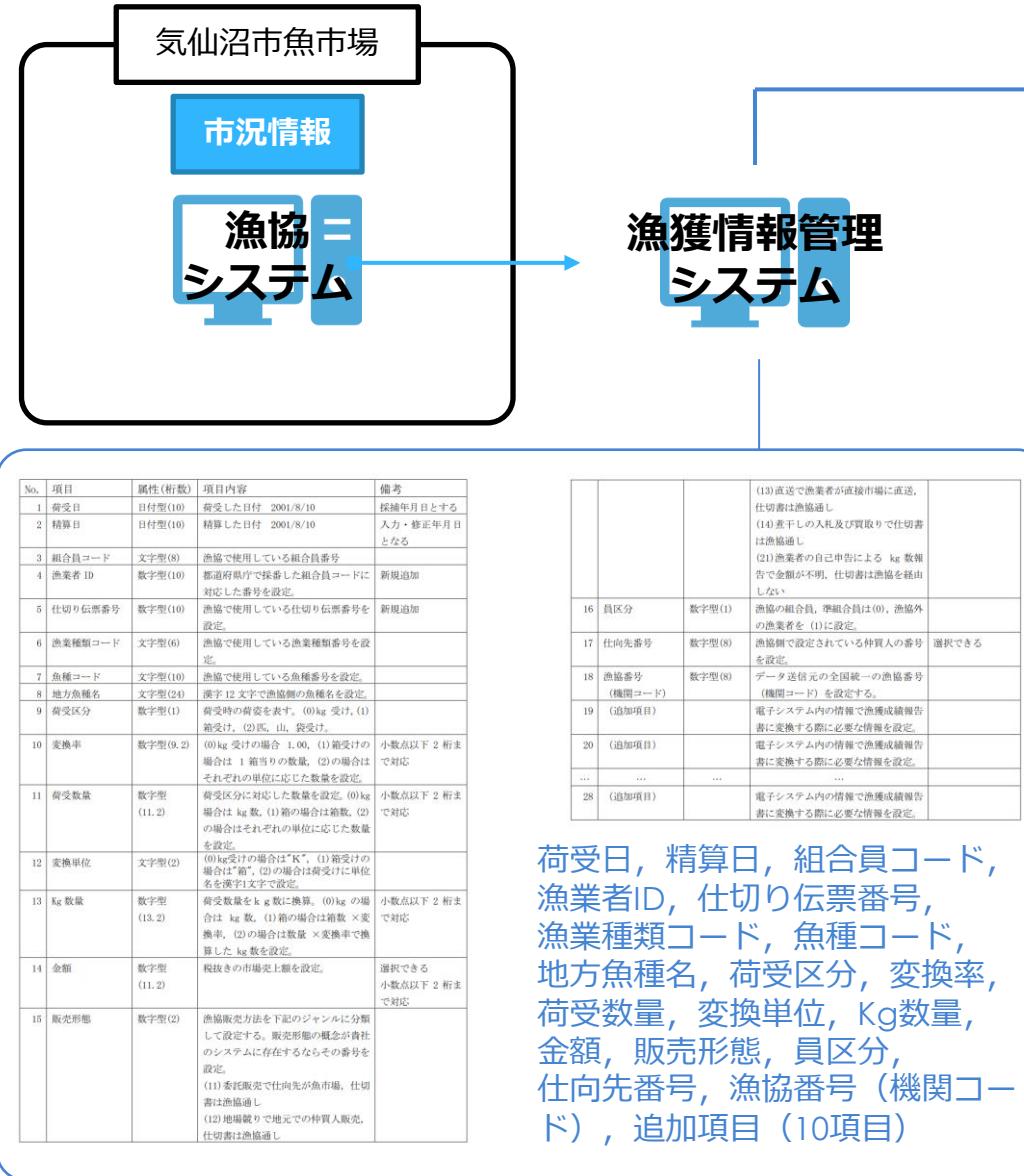
25. 協議1 入船情報の情報連携に係る課題と対応案



26. 協議1 市況情報に係る情報連携の課題と対応案①



27. 協議1 市況情報に係る情報連携の課題と対応案②



青：現出力情報で表現可能

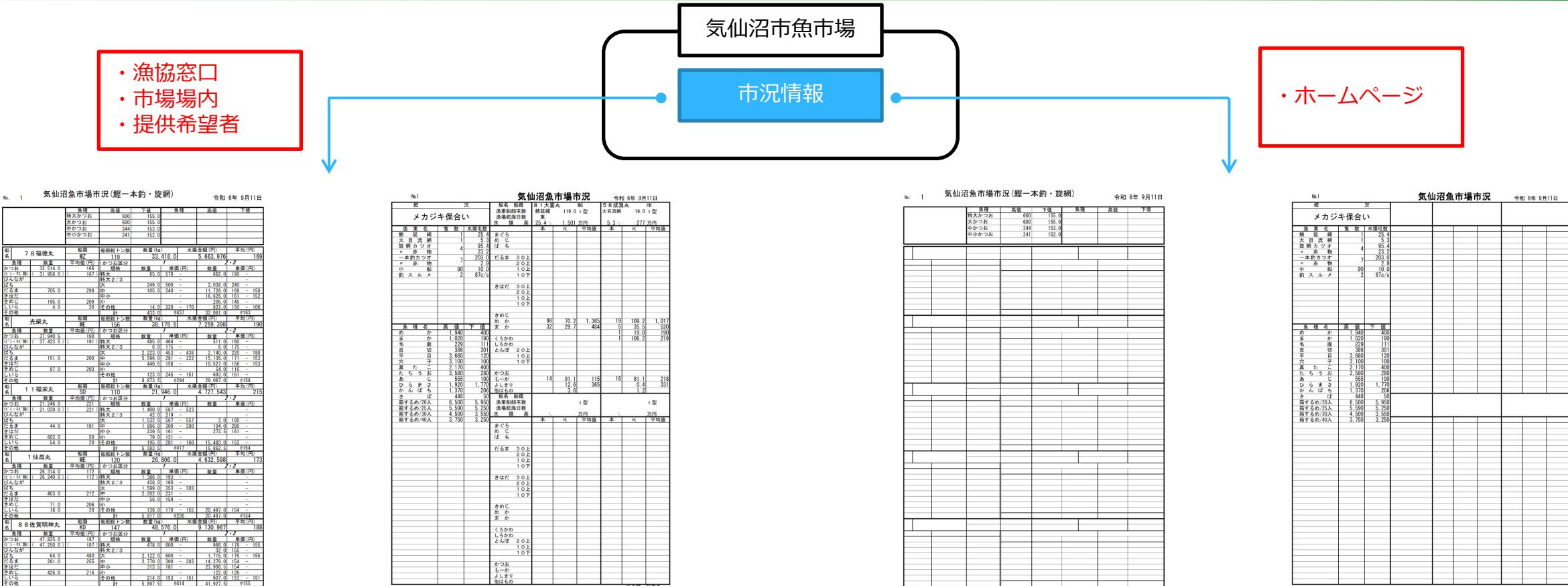
赤：漁協システムから追加出力が必要

→ R6年度中作業

→ R7年度以降作業

※金額=税込

27. 協議1 市況情報に係る情報連携の補論



地方卸売市場 気仙沼市魚市場業務規程

(卸売予定数量等の公表)

第36条 市長は、卸売予定数量並びに卸売の数量及び卸売価格（せり売り、入札又は相対取引に係る価格に、消費税額及び地方消費税額を加えた価格をいう。第40条第3項において同じ。）を速やかに魚市場内の見やすい場所に掲示し公表しなければならない。

2 卸売業者は、前項の公表に必要な資料を市長に提出しなければならない

(卸売業者による売買取引の結果等の公表等)

第36条の2 卸売業者が行う卸売予定数量並びに卸売の数量及び価格(消費税額及び地方消費税額を含む。)の公表は、**市場内の見やすい場所**に掲示してするものとする。

2 卸売業者は、その月の前月の委託手数料の種類ごとの受領額及び奨励金等がある場合にあってはその月の前月の奨励金等の種類ごとの交付額（第19条の4の規定によりその条件を公表した委託手数料及び奨励金等に係るものに限る。）を公表するものとする。

3 卸売業者は、第1項の規定により公表する場合において、その売買取引結果等の内容が前条の規定により市長が公表する市場ごとの売買取引結果等の内容と同一の内容である場合には、開設者と共同で第1項の公表を行うことができる。

28. 協議1 取組スケジュール

	～R6.6-8			9			10			11			12			R7.1			2			3・R7年度～	
	6	7	8	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
E分科会								10/7第1回E分科会											第2回E分科会				
E分科会作業部会	必要に応じて隨時開催																						
入船情報																							
・現況把握	●	→																					
・基本設計・開発		●	→																				
・他港協議			●	→															●	→			
・詳細設計・開発				●	→														●	→			
市況情報																							
・現況把握	●	→																					
・基本設計・開発			●	→															●	→			
・他港協議				●	→														●	→			
・詳細設計・開発					●	→													●	→			

今年度における事業計画②

- ・E-2：第1回水産バリューチェーン研究会 (NO. 29～37)

29. 協議2 第1回水産バリューチェーン研究会 資料構成

1. 水産バリューチェーンの定義
2. 水産物の流通工程
3. 水産バリューチェーンの目指す取組み
4. 令和6年度の検討事項（案）
 1. 先進事例の調査
 2. 水産物流通と気仙沼における課題の整理
5. 令和7年度の事業（案）

30. 協議2 第1回水産バリューチェーン研究会 今年度事業の背景

令和5年度の検討経緯（振り返り）

- 令和5年度に「気仙沼水産バリューチェーン研究会（仮称）」を設置した。
- サプライチェーンの全体像や各段階における経営環境や将来像に関する理想と課題について共有した。
- 令和6年1月に株式会社フーディソン・山本代表取締役CEOによる講演を聴講した。
(講演テーマ) フーディソンのプラットフォーム事業のご紹介
バリューチェーンモデルについて

令和5年度の検討成果と令和6年度以降の展開

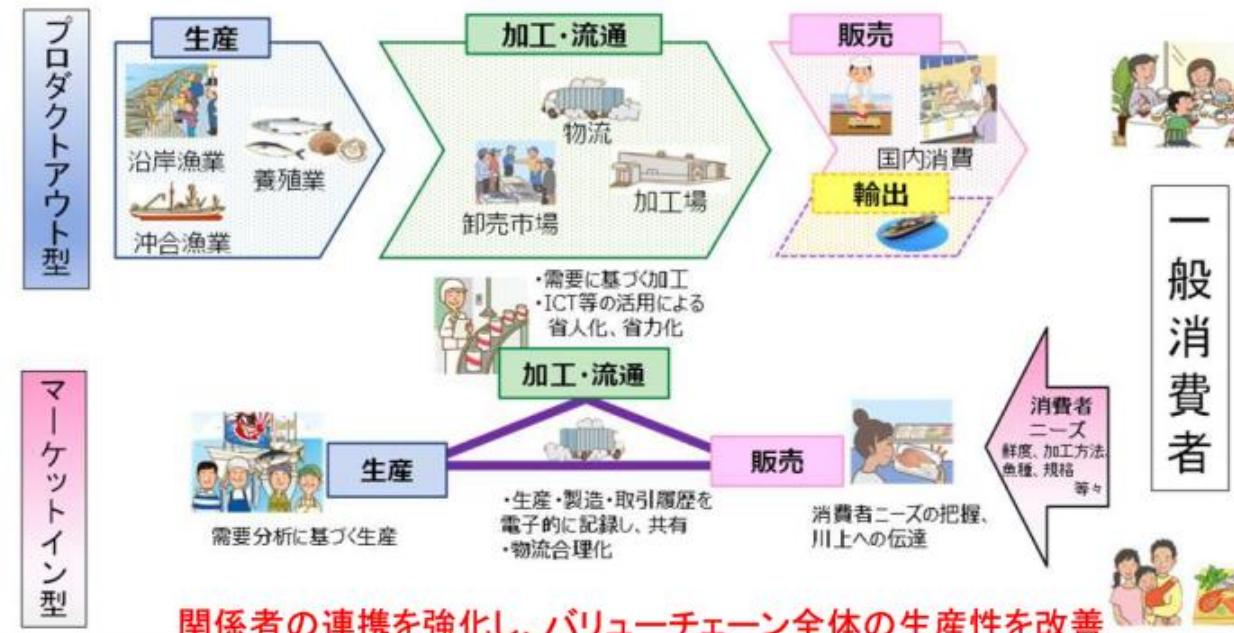
- 水産バリューチェーン構築の目的を次のとおり整理した。
 - ①川上＝生産者（漁業者）や魚市場に利益が還元されるサプライチェーンを構築する。
 - ②気仙沼が取扱う魚種の商品価値や情報を付加価値として消費者（例：東京）に確実に届ける。
 - ③消費者（例：東京）が求める商品情報やニーズを製品開発や流通に還元する。
- マーケットイン（消費者のニーズ・意向を反映した商品を市場に投入する取組み）の考え方を取り入れたサプライチェーンの構築を目指す。そのため活用可能なデジタル技術は積極的に導入する。
- ➡ 令和6年度以降の展開に向けて「水産バリューチェーンの全体像に関する正確な理解」と「国内外における水産バリューチェーンの先進事例（気仙沼にとっての参考事例）に関する調査研究」を進めていく必要性を確認した。

3 1. 協議2 第1回水産バリューチェーン研究会 水産バリューチェーンの定義

- 水産物の流通において、従来のサプライチェーンは魚（モノ）の動きを中心に捉えられることが主流であった。
- 一方、従来のサプライチェーンの考え方とは異なり、生産から流通、加工、消費に至る各段階における情報や価値の伝達を双方に行うことで、各段階における水産物の価値を上げていく取組や考え方を「水産バリューチェーン」と呼ぶ。

水産バリューチェーンの意義・理念について

- 関係者の連携が不十分で、水揚げ減少、人手不足、国内消費減少等の困難な状況に効果的に対応できおらず、バリューチェーン全体の生産性が低い。
- 卸売市場を通じた多段階流通は日本の漁業の特性に応じた仕組みだが、情報の伝達には弱く、水産物の価値が埋没しやすい。



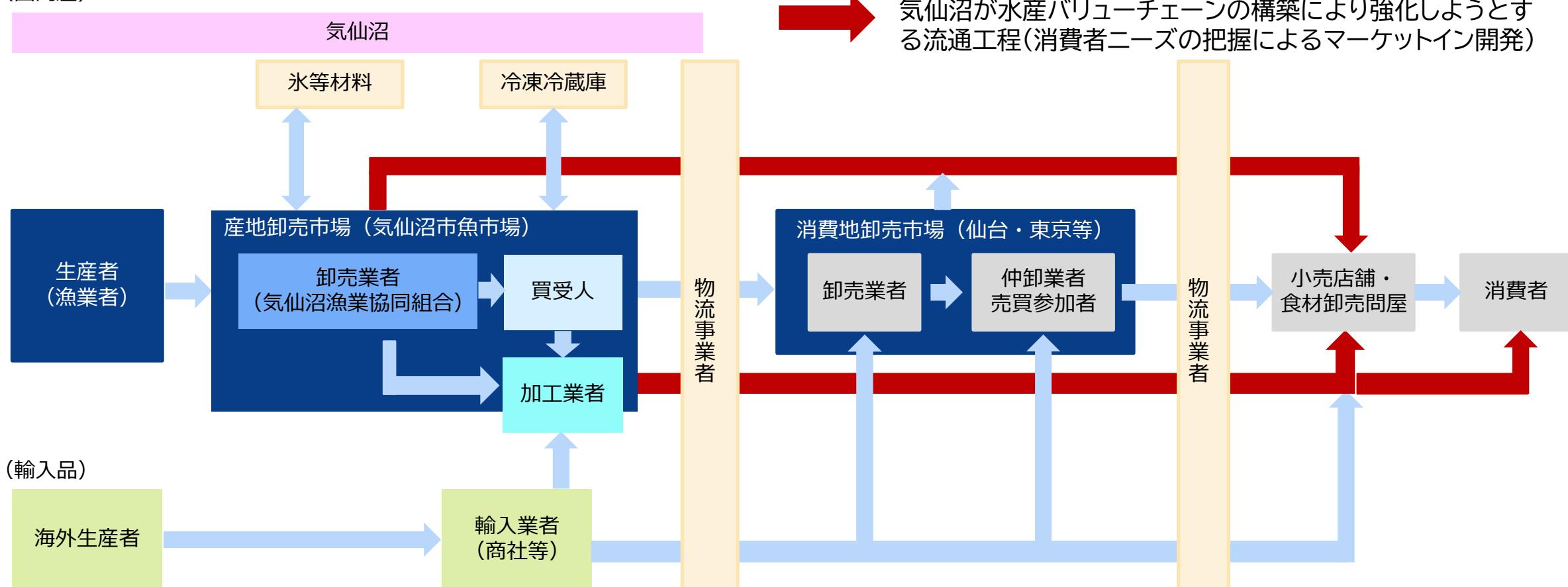
- 先進技術の活用や取引形態の見直し、施設・設備の共同利用等によって需給の安定とコストの削減を進め、バリューチェーン全体で生産性を向上。
- 生産から加工・流通、販売までの関係者がマーケットインの視点で事業を展開し、水産物の価値と漁業者の手取りを向上。

(出典) 水産庁

3 2. 協議2 第1回水産バリューチェーン研究会 水産物の流通工程

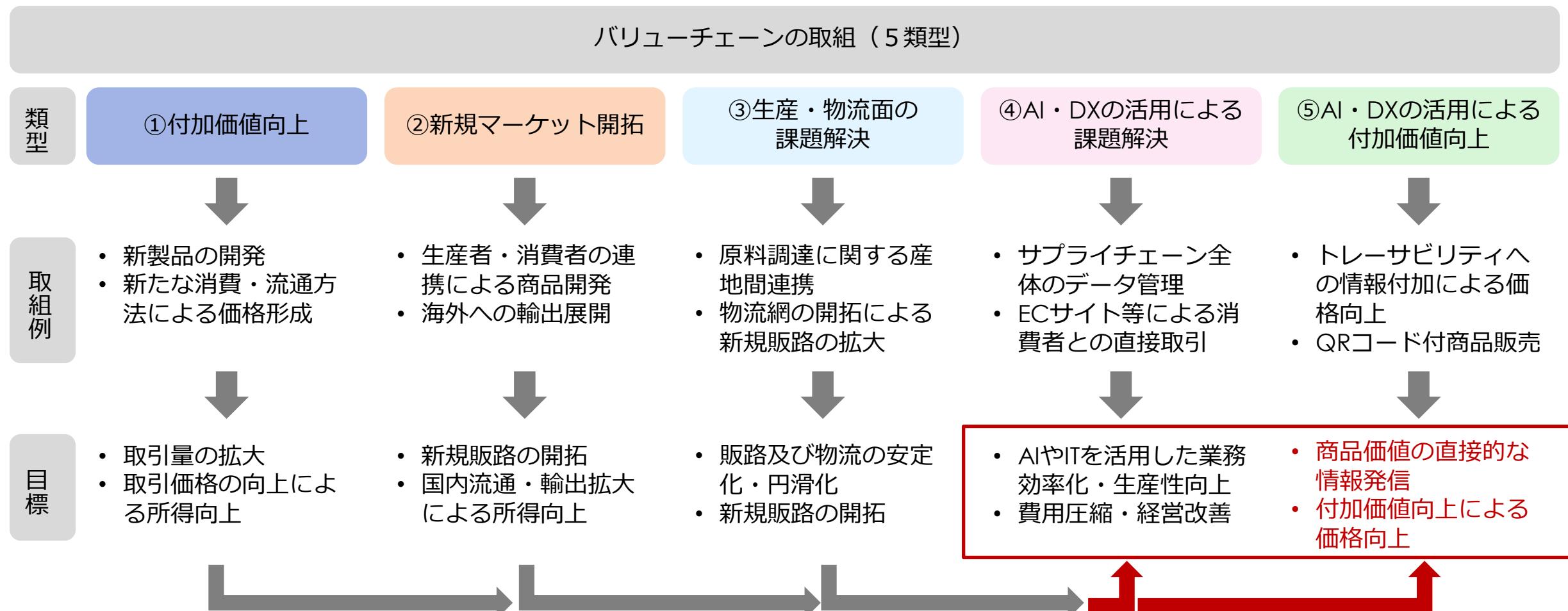
- 水産物の一般的な流通工程を整理すると下図のとおりとなる。
- 生産者（川上）から加工・流通（川中）を経て消費者（川下）まで、多数の関係者を経由しながら水産物が流通するサプライチェーンが構築されている。
- また、近年では、デジタル技術を介して従来の流通とは異なる経路により消費者や飲食店等に直接、商品を流通させる水産ベンチャー企業等も参画しており、水産物の流通工程は複雑化している。
- これらの流通工程のうち、気仙沼は、生産者～産地卸売市場、加工業者を中心として、サプライチェーン上の川上～川中に位置する。

(国内産)



3 3. 協議2 第1回水産バリューチェーン研究会 水産バリューチェーンの目指す取組み

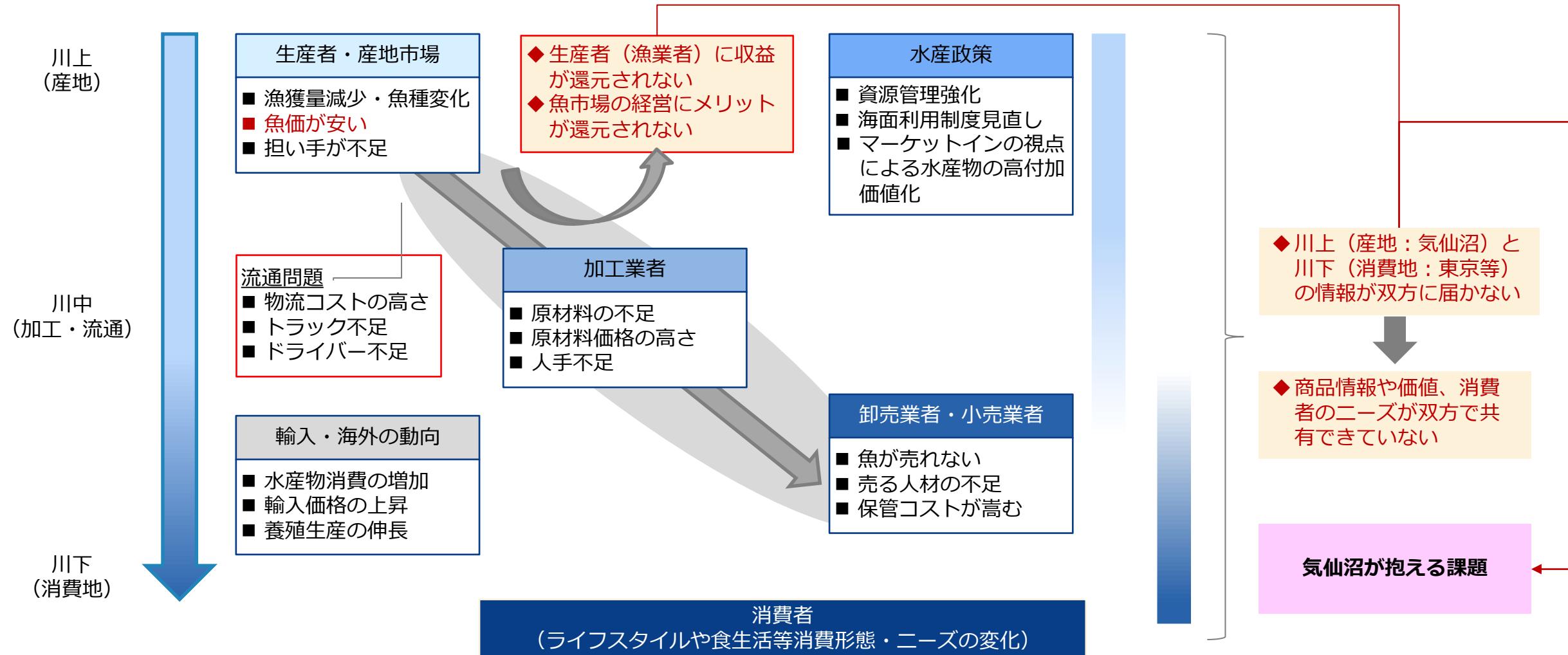
- 水産庁の資料に基づけば、水産バリューチェーンの構築による取組みについては、次の5類型に分類される。
- 気仙沼では、特に、④⑤のようにデジタル技術を活用することにより、産地（気仙沼）と消費者の間で相互に情報が受発信されたり、情報発信による付加価値を価格向上につなげたりすることを目指している。



（参考）水産庁「水産バリューチェーンの構築（令和6年3月）」

3 4. 協議2 第1回水産バリューチェーン研究会 水産物流通と気仙沼における課題の整理

- 水産物の流通においては、川上～川中～川下のサプライチェーン全体で様々な課題を抱えている。
- 気仙沼はサプライチェーンの上流に位置しており、特に、生産者や魚市場の経営・収益面へのメリットに課題を生じている。
- また、サプライチェーン全体では、川上・川下双方の情報が相互に届かず、情報や価値、ニーズを共有できていないことに課題認識を持っている。



35. 協議2 第1回水産バリューチェーン研究会 令和6年度の検討事項

国内外における水産バリューチェーンの先進事例（気仙沼にとっての参考事例）に関する調査研究

- 水産バリューチェーンの取組（5類型）について、国内外における先進事例（気仙沼にとっての参考事例）に関する調査研究を実施する。
- 国内外の事例について、気仙沼にとって有益な事例については、取組みの実施主体となる民間事業者等を講師として招聘する。

気仙沼が目指す取組みや水産バリューチェーンのあり方を関係者間で具体化する。

■参考事例に関するロングリスト

#	事業等名称	対象地域		事業概要	バリューチェーン分類	目的適合性※
1	ブロックチェーンを活用したトレーサビリティシステムの構築	千葉県 鹿児島県	船橋市 南さつま市	・ トレーサビリティシステムの構築 ・ 情報付加による魚価・付加価値の向上	AI・DXの活用による付加価値向上	①②③
2

水産バリューチェーン構築の3つの目的

- ①川上＝生産者（漁業者）や魚市場に利益が還元されるサプライチェーンを構築する。
- ②気仙沼が取扱う魚種の商品価値や情報を付加価値として消費者（例：東京）に確実に届ける。
- ③消費者（例：東京）が求める商品情報やニーズを製品開発や流通に還元する。

■参考事例の詳細整理・分析 ※下記は水産庁「水産バリューチェーンの構築（令和6年3月）」より抜粋。今年度の調査研究において、事例ごとに同様の整理を想定

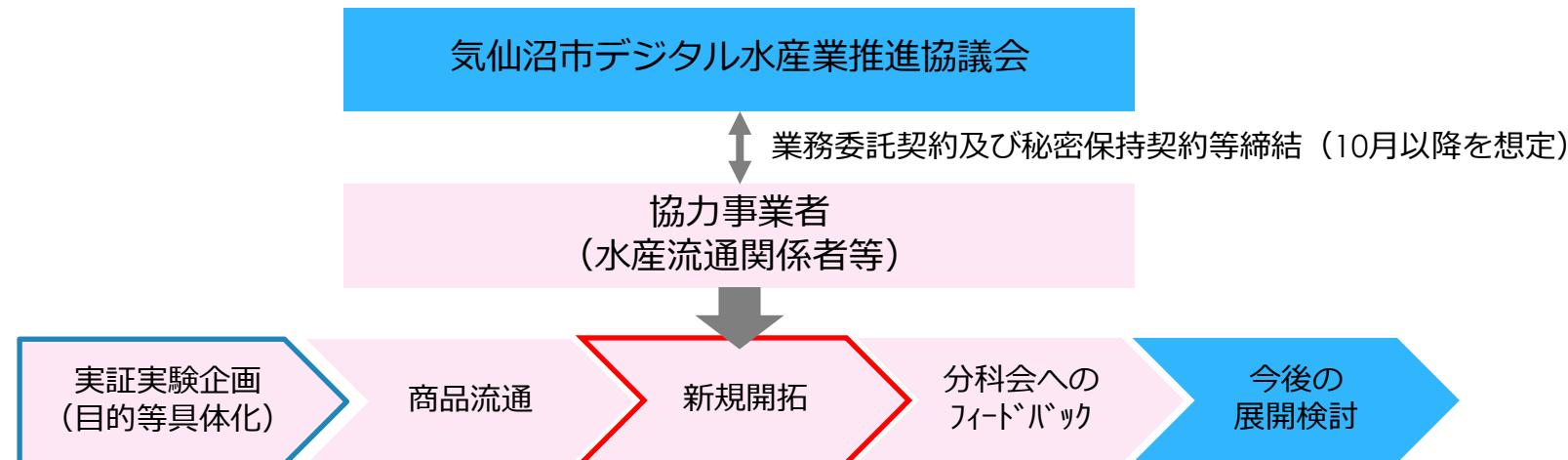
- 事業等名称：ブロックチェーンを活用したトレーサビリティシステムの構築
- 事業概要：ブロックチェーン技術によるトレーサビリティシステムを構築
サスティナビリティへの取り組みなど高品質な水産物の情報価値を消費者に届ける取り組みを推進
- 事業背景・課題認識等：
 - ・ SDGsなど、事業の持続可能性に対してサスティナビリティなどに対する社会的な関心が高まっている
 - ・ 海外では商品に対するトレーサビリティ情報の付加が求められる傾向が拡大しており、日本国内でも同様の取り組みを推進する必要性が高まりを見せつつある

- 検討体制等：Ocean to Table Council
- 取組内容：
 - ・ 千葉県船橋産スズキ及び鹿児島県吹上浜産ツキヒガイを対象にトレーサビリティシステムの構築と実証販売を実施
- 取組成果：
 - ・ トレーサビリティ情報の付加によって、スズキでは通常の魚価から約10%、ツキヒガイでは3年前の30円/枚から250～350円/枚と魚価が向上
 - ・ QRコードをスマートホンなどで読み込むことで、購入者が漁獲、加工、販売の場所や日時などのトレーサビリティ情報を閲覧できる仕組みを構築
 - ・ 漁業者や販売業者もトレーサビリティやシステム利用の価値を実感

36. 協議2 第1回水産バリューチェーン研究会 令和7年度の検討事項（案）

水産バリューチェーンに関する実証実験

- 昨年度の検討において、「気仙沼の旨いカツオ、マグロを東京の消費者に知ってもらい、食べてもらいたい」、「気仙沼の旨いカツオ、マグロを食べた消費者の反応を気仙沼に還元したい」との意向が示された。
- 昨年度の意向を踏まえ、カツオ、マグロを取り扱い、産地（気仙沼）から消費地（東京）に商品を流通させる実証実験を企画する。
- 実証実験では、水産バリューチェーン構築の目的に照らし合わせ、気仙沼から消費者への情報・価値提供と消費者から気仙沼への情報・評価の還元の双方を実現することを目指す。
- 実験項目としては、次のようなものを想定する。
例1）産地側の情報を付加した場合、通常よりも販売価格が高くなるのか（情報に関する付加価値の金額換算）。
例2）消費者の反応が産地に正確に届けられた場合、生産者側にメリットが生じるか（生産者メリットの発出方法）。
- ※ 実証実験を実施する場合には本市関係者はもちろん、外部協力者とも協議のうえ実施する。



- | | |
|---|---|
| <p>■ 協力事業者への依頼事項（仕様案）</p> <ul style="list-style-type: none">①気仙沼産カツオ、マグロの首都圏消費者向け流通・販売②流通・販売結果（販売数量・価格等）及び消費者等意見・評価の把握③消費者等の意見・評価の協議会への報告 <p>※飲食店、量販店等流通先の対象については協議会において要協議</p> | <p>■ 協力事業者選定視点（案）</p> <p>※候補事業者については協議会において要協議</p> <ul style="list-style-type: none">①気仙沼の水産業界及び水産物流通への精通②消費者等の正確な意見・評価把握の可能性（把握方法含む）③気仙沼の水産関係者との今後の関係構築・発展性 <p>→デジタル水産業を含め将来の関係構築に有益と考えられる事業者を選定</p> |
|---|---|

37. 協議2 第1回水産バリューチェーン研究会 今年度スケジュール

- 10/7 (月) 15:00～17:00 第1回E分科会+第1回水産バリューチェーン研究会
- 10/18 (金) 13:00～15:00 第2回水産バリューチェーン研究会
- 10～11月 先進地視察, 招聘講師検討
- 12月～ 第3～X回水産バリューチェーン研究会
- 1月下旬～ 第2回E分科会

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上										
■気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元										
#	事業等名称	分野	販路	主たる対象地域		取組概要	VC分類	VC構築キーワード	適性	主要関係者
1	気仙沼産メカジキの付加価値向上	水産	国内	宮城県	気仙沼市	気仙沼産生食用メカジキの高鮮度化及び首都圏向け販路開拓により、生食用メカジキの需要を開拓（販売実績23.7倍に拡大） 科学的データを活用した鮮度保持技術の確立に取組む	①②	鮮度保持 新規販路開拓	★	南気仙沼水産加工事業協同組合 気仙沼漁業協同組合 気仙沼商工会議所 気仙沼メカジキブランド化推進委員会 マルハニチロ
2	青森県ベニズワイガニ連携協議会	水産	国内	青森県	深浦町	ベニズワイガニの高鮮度化と加工用流通ルートの拡大、生鮮流通ルートの開拓に取組む 規格外（傷物等、低利用等）のベニズワイガニを用いた新商品の開発	①②	品質管理水準向上 新規販路開拓		日本フィッシュアリーサポート あおもり海山 魚力
3	四国東南区バリューチェーン流通改善協議会	水産	国内	徳島県	－	水揚・在庫情報のリアルタイム共有データベースの構築（取引拡大）により、幅広い事業者からの商品アクセスが増加し、取引関係の構築を拡大 顧客のニーズに応じた加工製品の製造・出荷体制の構築 商品開発と販路開拓（販売実績約1.7倍に拡大）	⑤	情報共有システム構築 (IT技術活用) マーケットイン開発 販売先の多角化	●	橋コーポレーション ヒロ・コーポレーション みやひろ
4	長崎地域かまぼこバリューチェーン改善協議会	水産	国内	長崎県	－	未利用魚・低利用魚の活用による原料不足解消と安定供給体制の確立 顧客ニーズ・加工場の要望をフィードバックすることでマーケットインの視点に基づいた新製品の開発 多方面でのマーケット開拓（販売実績約1.2倍に拡大）	①③	低未利用魚活用 マーケットイン開発		長崎蒲鉾水産加工業協同組合 長崎蒲鉾
5	バスあいのり水産バリューチェーン改善促進協議会	水産	国内	－	－	高速バス荷室を活用した水産物流通ルートの構築 IoT端末を利用した貨物管理機能によるコールドチェーン構築 小ロット出荷や高鮮度商品の長距離輸送の実現により首都圏への販路拡大（販売実績約1.6倍に拡大）	③⑤	異業種連携 IoT技術活用 希少性、品質等の消費者評価	●	アップクオリティ
6	西日本バリューチェーン流通改善協議会	水産	国内	長崎県	松浦市	温度管理システムによる管理体制の構築や選別システム導入などによる工程の効率化等サプライチェーンの改善を推進 併せて生協組合員との交流会により消費者の商品ニーズについて情報収集を行うとともに消費者ニーズを反映できる生産～加工～販売の流れの構築に取組むことで販路拡大（販売実績約2.8倍に拡大）	④	情報・品質管理体制整備 サプライチェーン構築 マーケット院開発	●	日本遠洋旋網漁業協同組合 西日本魚市 生活協同組合連合会
7	活魚流通構築推進協議会	水産	国内	－	－	「魚活ボックス」を用いた活魚輸送システムの構築 活魚に対する潜在的なマーケットの存在を確認するとともに、ITを活用した活魚の受発注システムを構築	①②③	輸送システム構築 IT技術活用		長崎蒲鉾水産加工業協同組合 長崎蒲鉾

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上										
■気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元										
#	事業等名称	分野	販路	主たる対象地域	取組概要	VC分類	VC構築キーワード	適性	主要関係者	
8	JFバリューチェーン改善検討協議会	水産	国内	—	プライドフィッシュや地魚を活用したメニュー・商品の企画・開発 マーケットイン型の商品で無駄なコスト削減や外食産業等のノウハウを活用した消費者への情報発信、国産水産物の消費拡大と魚食普及に取組む 浜と消費者を結ぶ通信販売システムの構築により漁業現場のもつ価値（コト）をあわせてトレース可能な形で流通させる仕組みづくりを推進	①⑤	受発注システム（マッチング） マーケットイン開発 ICT技術活用	●	全国漁業協同組合連合会 全国水産加工業協同組合連合会	
9	広域連携バリューチェーン改善協議会	水産	国内	富山県	近隣漁協、生産者との広域連携による加工原料の安定的な確保と生産効率化 トレーサビリティシステムの構築 3PLの構築による物流コストの削減	③	広域連携 トレーサビリティシステム		魚津漁業協同組合 日本海冷蔵 松栄運輸	
10	隠岐の水産物ブランド化推進協議会	水産	国内	島根県 隠岐諸島	地域内連携による隠岐白バイ貝のブランド構築と商品開発 生産者による共同出荷でロット確保・安定供給の実現 CAS凍結による高品質な白バイ貝 多様な販売チャネルにおける販路開拓	①②	商品ブランド化 新技術活用（CAS）		一般社団法人離島百貨店 松栄丸	
11	Ocean to Table Council	水産	国内	千葉県 鹿児島県	変更、削除、改ざんができないブロックチェーン技術を用いたトレーサビリティシステムの構築 消費者がQRコードで商品の経歴を閲覧可能な状態にし、その漁獲物の価値を見える化 トレーサビリティが付加された水産物の販路開拓	①②⑤	生産者への利益還元 トレーサビリティシステム ICT技術活用	●	アイエックス・ナレッジ 海光物産 フーディソン	
12	地下海水陸上養殖サーモンバリューチェーン改善促進協議会	水産	国内	静岡県 静岡市	地下海水陸上養殖サーモンの周年生産体制の構築 消費者ニーズに合った加工品の開発及び首都圏への活魚出荷 他との差別化を図り、首都圏市場への販路を開拓	③	陸上養殖 マーケットイン開発		日建リース工業 Aging Fish Japan ふかくら バンノウ水産	
13	熊本県産あさりバリューチェーン改善協議会	水産	国内	熊本県	熊本県産あさりのトレーサビリティシステムの構築や販売協力店によるトレーサビリティシステムを用いた県産の流通を推進 店頭におけるQRコードの掲示等により熊本県産アサリのブランド力の再生に取組む	④	トレーサビリティシステム ICT技術活用		熊本県 大海水産	
14	JFライブコマース検討協議会	水産	国内	兵庫県 姫路市	情報通信技術を活用した水産物の通信販売サービスの実現やエンターテインメント性を持ち込んだ販売プロモーションを推進 マーケットインの視点による商品の企画・開発、消費者ニーズに対応した加工、出荷と配送作業等の効率化、ライブコマースを活用した水産物の販売に取組む	⑤	生産者と消費者の直接対話 ICT技術活用	●	全国漁業協同組合連合会 兵庫県漁業協同組合連合会 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ	

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上										
■気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元										
#	事業等名称	分野	販路	主たる対象地域	取組概要	VC分類	VC構築キーワード	適性	主要関係者	
15	新幹線高速物流検討協議会	水産	国内	鹿児島県	新幹線による朝獲れ水産物の大口高速輸送 ICTシステムにおける水産物の販売に向けた検討（産地と消費者をつなぐ受発注用アプリの開発） 中間物流コストを軽減し、生産者の利益拡大	①③⑤	受発注システム（マッチング） マーケットイン開発 物流・中間コスト削減 生産者への利益還元	●	九州旅客鉄道 山実水産	
16	銚子発・CFPの見える水産加工品流通促進協議会	水産	国内	千葉県	銚子市	千葉県銚子産サバ類の生産から消費に至る過程におけるCFP（生産から消費に至るCO2排出量）を算出し、「環境負荷の低いたんぱく質」として水産物の新しい価値を創造 東京大学の生協との連携による効果的な販路開拓の実施	①②	環境負荷軽減 異業種連携	全銚子水産加工業協同組合 銚子市漁業協同組合	
17	福井県水産バリューチェーン改善協議会	水産	国内	福井県	—	県産ブランド養殖魚について活魚車の導入により活魚での安定供給 を図るとともに生産情報や在庫状況を関連付けた受発注アプリを整備しスムーズな受発注を実現 アプリの機能を用いて販売業者や飲食店からの意見を生産者にフィードバックすることで連携体制を構築	①②⑤	商品ブランド化 受発注システム（マッチング）	● 福井県漁業協同組合連合会 福井中央魚市	
18	気仙沼カツオ・ビンガババリューチェーン改善促進協議会	水産	国内	宮城県	気仙沼市	MSC認証を取得した一本釣り漁船業者に対し、認証無しよりも高相場で認証付きビンガバカツオを買い上げることで高付加価値化を実施 出荷できる商品形態を検討 東北地方の大手量販店と契約を結び、合同でMSC認証を押し出した商品の開発を実施	①②	品質管理認証 サプライチェーン改善	★ 南気仙沼水産加工事業協同組合 気仙沼漁業協同組合 阿部長商店 阿部長マーメイド食品	
19	しものせきデジタル水産業推進コンソーシアム	水産	国内	山口県	下関市	下関漁港（卸売市場）の生産者・卸売業者・買受人・消費者・行政等が連携 デジタル情報を収集し、ニーズに応じてデジタル情報を活用することで、省人・省力化、作業効率の向上、コスト削減、売上高の向上など漁港の高度化を推進 生産現場で導入されている既存アプリを活用しながら卸売市場のデジタル化を目指す。セリ方式はシステム上では3パターン（先取り、通常セリ、システムセリ）が可能で、卸売業者と買受人はセリに関する情報の共有を目指す	④	IT技術活用（システム開発） 生産性向上・省力化	● 水産研究・教育機構水産大学校 山口県／下関市 山口県以東機船底曳網漁業協同組合 山口県漁業協同組合 下関水産物卸協同組合 下関中央魚市場	
20	CASシステム活用の取組み	水産	国内	島根県	隠岐郡	瞬間凍結技術であるCASを導入した水産加工施設を整備 従来、出荷が難しかった首都圏の大消費地へ旬の味と鮮度を保ったまま出荷することで販路開拓と付加価値向上を実現	①②	新技術活用（CAS）		
21	ICT/IoTを活用した漁業支援（KDDI版スマート水産業）	水産	国内	宮城県 福井県 長崎県	東松島市：データ活用による漁獲高の事前予測 小浜市：IoTによる給餌量最適化で餌代を抑止 五島市：赤潮の早期検知で被害を未然に防止	③④	ICT・IoT技術活用 生産性向上	KDDI		

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上										
■気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元										
#	事業等名称	分野	販路	主たる対象地域	取組概要	VC分類	VC構築キーワード	適性	主要関係者	
22	流通プラットフォーム「羽田市場」	水産	国内	－	従来の卸売市場を介さず、生産者と消費者を直接結びつける新たな市場機能を提供 デパート、スーパー、すし、海鮮居酒屋などの法人の客様と一般のお客様を対象としたサプライ チェーンを構築 トレーサビリティを実現するために、ケース単位で、産地、漁師の氏名、水揚げ日時、種類、漁法など を管理	①②⑤	トレーサビリティシステム 受発注システム（マッチング） 物流・中間コスト削減 生産者への利益還元	●	羽田市場	
23	スマート養殖管理システム「Fishtech養殖管理」	水産	国内	北海道 神恵内村	ウニ・ナマコの陸上養殖に『Fishtech養殖管理』を活用 システムにより管理された陸上養殖により、季節を問わず安定出荷が可能 国際的なトレーサビリティ規格(TraceFish 標準)をベースとした機能をシステムに実装する事により、育成した生体の高精度トレーサビリティ管理を実現	①③④	陸上養殖 ICT技術活用 トレーサビリティシステム 生産性向上		富士通	
24	一般社団法人Chefs for the Blue	水産	国内	－	水産ベンチャーであるベンナーズと有名料理店のシェフがタッグを組み、低利用魚のミールパックを開 発やアイゴやテングハギ、クロダイを使用したスープを製品化 漁業者への利益還元に向けた適切な価格設定、「美味しい魚」であることを積極的に情報発信に 取組む	①②	異業種連携 生産者利益の拡大		一般社団法人Chefs for the Blue ベンナーズ	
25	AIスマート給餌機による ハマチ養殖	水産	国内	－	AI・IoT技術を活用したスマート給餌機「UMITRON CELL（ウミトロンセル）」を活用したハマチ のスマート養殖に日本で初めて成功 AIやIoT技術の導入による更なる効率化・省力化を進めることで、消費者に安定した魚の供給量 確保、リーズナブルで高品質な商品提供を目指す	④	AI・IoT技術活用 異業種連携 サプライチェーン構築 生産性向上・省力化	●	ウミトロン KURA おさかなファーム	
26	魚市場での買い付けや 配達業務を支援する「セ リ原票アプリ」	水産	国内	東京都 新潟県	豊洲市場 新潟市場	手作業で行っている業務をシステム化することで現場の業務効率化と業務品質向上を推進 作業時間の短縮や発注ミス、配達ミスの減少による業務の質の向上、データ蓄積による知見の平 準化、ペーパーレス化を実現	④	生産性向上		角上魚類ホールディングス モンスターらボ
27	売り時をコントロールし、 逆境を跳ね返すシャー ベットアイス	水産	国内	沖縄県	国頭村	シャーベットアイス生成機のSIS-HFを導入することにより、水産物の鮮度保持期間を長期化 魚価が下がりすぎないように価格を調整しながら出荷量を調整 量販店からの評価に変化があり取引が増加	①③④	品質管理水準向上 出荷調整		国頭漁協
28	日本水産物輸出拡大 連携協議会	水産	輸出	－	－	米国の大手スーパー等の調達基準を満たした養殖ハマチの生産及び販路開拓 生産履歴を開示するシステムの開発・導入による生産の効率化	②④	トレーサビリティシステム		Sea Tech Trading 魚力

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上											
■気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元											
#	事業等名称	分野	販路	主たる対象地域	取組概要	VC分類	VC構築キーワード	適性	主要関係者		
29	ベトナム輸出版路拡大推進協議会	水産	輸出	ベトナム	出荷体制整備 商品製造・商品開発 国産水産物の販路開拓（販売実績約6.7倍に拡大）	②	サプライチェーン構築（輸出拡大）		ふいっしゅいんりあ 灘水		
30	水産物流通バリューチェーン輸出拡大連携協議会	水産	輸出	千葉県	銚子市	荷物を積み込んだ状態の冷凍コンテナを電源供給しつつ一時に保管・移動させるための拠点となる「コンテナトランスマーステーション」を整備 冷凍コンテナの積載率を向上、集約化による効率的なアフリカ向けの輸出 国内主流の15kg段ボールからベトナム向け10kg段ボール箱製品の製造・出荷体制の構築 譲り情報共有システムの構築	③	サプライチェーン構築（輸出拡大） ICT技術活用		全国水産加工業協同組合連合会 全銚子水産加工業協同組合 大國屋 三協	
31	宮城県産ほや海外販路開拓促進協議会	水産	輸出	宮城県	—	輸出先国・地域のニーズ（品質、商品規格、サイズ）に対応した生産体制の整備 遠隔地輸出を前提とした加工・凍結工程の機械化、ホヤ輸出工程の整備 加工・流通体制を構築 米国のコリアンタウンにおける日本産ホヤのマーケティングおよび販路開拓	①	サプライチェーン構築（輸出拡大） マーケットイン開発		南気仙沼水産加工事業協同組合	
32	日本の冷凍水産物輸出協議会	水産	輸出	長崎県	—	雪状塩水氷製氷装置の導入により高鮮度なトラフグの出荷・流通できる環境の構築 シンガポール、マレーシアへの高次加工品の開発・製造 販売促進のためのプロモーション活動による海外販路開拓 バリューチェーンの構築	②	サプライチェーン構築（輸出拡大） 品質管理水準向上		関門海	
33	いわし等輸出連携推進コンソーシアム	水産	輸出	青森県	八戸市	ベトナムタイへの高鮮度出荷体制構築（鮮度・温度変化などの可視化） 魚のサイズ選別機導入によるニーズに合った高付加価値化 鮮度調査結果の多言語公開による高鮮度化商品の販路開拓戦略	①	サプライチェーン構築（輸出拡大） 品質管理水準向上		一般社団法人いわし普及協会 マルヌシ 八戸魚市場	
34	TUNA SCOPE マグロバリューチェーングループ	水産	輸出	神奈川県	三浦市	冷凍マグロの目利きをAI化するシステム「TUNA SCOPE」の開発 目利きAIを活用した検品フローの導入 海外都市圏におけるAIマグロのマーケティングによる販路拡大（販売実績約1.8倍に拡大）	④	サプライチェーン構築（輸出拡大） AI技術活用		三崎恵水産	
35	全国漁業協同組合連合会ほか2者共同提案	水産	輸出	三重県	—	シンガポールへの三重県産カキ輸出体制整備 産地で注文数に合わせた小分け包装を実施（マーケットイン対応） ICT機器を導入し、検査結果及び衛生証明書を関係者間で共有	②	サプライチェーン構築（輸出拡大） マーケットイン開発 ICT技術活用		全国漁業協同組合連合会 佐藤養殖場 丸善水産	

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上										
■気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元										
#	事業等名称	分野	販路	主たる対象地域	取組概要	VC分類	VC構築キーワード	適性	主要関係者	
36	クール北海道ほか6者共同提案	水産	輸出	北海道	—	高付加価値な加工品輸出に向けて生産者と加工業者が連携 航空便から冷凍コンテナをチャーターし、共同出荷による船便に切り替え輸送コスト削減 タイ・中国マーケット向けの高次加工製品を開発	③	サプライチェーン構築（輸出拡大）	クール北海道 曲メ高橋水産ほか 丸中しれとこ食品 田中水産	
37	日本水産輸出拡大連携協議会	水産	輸出	鹿児島県 青森県	—	マーケットが求める品質管理の基準（サステナビリティ基準）をクリアするため、AIP（養殖改善計画：薬剤の軽減や給餌計画の変更等）を策定 高鮮度凍結機を導入し、品質向上 航空便から船便に輸出方法をシフトし、輸送コスト削減 現地マーケティングの強化	④	サプライチェーン構築（輸出拡大） 品質管理水準向上	Sea Tech Trading 魚力 中央魚類	
38	富山湾水産物輸出バリューチェーン構築改善協議会	水産	輸出	富山県	—	オンラインシステム構築による流通効率化 現地試食会やPRイベントを行い、インドへの販路開拓・輸出 輸出に係る作業のIT化による簡略化と電子通関対応	④	サプライチェーン構築（輸出拡大） ICT技術活用	ジェイズコーポレーション 魚河岸	
39	萩水産物輸出協議会	水産	輸出	山口県	萩市	萩地域での初の輸出取組 3Dフリーザ（冷凍技術）や氷温熟成機を導入した高付加価値加工体制の構築 問い合わせなど、AIチャットボットシステムの導入等による事務手続きの簡略化 輸出に向けた新商品の企画・開発とアジア圏における販路開拓	④	サプライチェーン構築（輸出拡大） 品質管理水準向上 生産性向上	JTB総合研究所 広松 日本郵便萩越ケ浜郵便局	
40	活魚流通拡大連携協議会	水産	輸出	九州	—	韓国への輸出基準を満たした商品開発（エトキシンフリーの飼料を用いた生産） 夏季の活ぶりであっても、給餌を管理した寄生虫がつく可能性が低い養殖魚であることなどを価値として訴求	②	サプライチェーン構築（輸出拡大） 品質管理水準向上	マルハニチロ イヨスイ	
41	水産養殖輸出連携協議会	水産	輸出	西日本地域	—	西日本中心に複数産地が連携した輸出体制の構築 多様な魚種を年間を通して輸出できる体制を構築 国内各産地で超低温コンテナに集荷し、輸出 航空便から船便に輸送方法を返納することで輸送コストを削減	③	サプライチェーン構築（輸出拡大） 品質管理水準向上	三崎恵水産 山口県漁業協同組合はぎ統括支所	
42	はさき水産物輸出拡大連携推進協議会	水産	輸出	茨城県	—	EU向け輸出水産食品取扱認定施設に登録 トレーサビリティ情報の入力などにバーコードリーダー/プリンターを導入し、ヒューマンエラーを低減、作業の効率化 輸出先が求める規格重量などの品質基準に対応した製造体制の構築 加工事業者を中心に販路開拓	②	サプライチェーン構築（輸出拡大） トレーサビリティシステム	トウスイ 東都水産	

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上

■ 気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上										
■気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元										
#	事業等名称	分野	販路	主たる対象地域		取組概要	VC分類	VC構築キーワード	適性	主要関係者
50	三重漁連輸出拡大連携協議会	水産	輸出	三重県	—	三重県産養殖養殖魚の輸出拡大に向けた取組 製販連携による養殖魚の安定的な供給体制の構築 深絞り真空包装機等、加工機器の導入による輸出向け製品の開発・製造 東南アジアを中心とする輸出版路開拓	①	サプライチェーン構築（輸出拡大） 品質管理水準向上		三重県漁業協同組合連合会 ニシウオマーケティング
51	フードテック流通推進協議会	水産	輸出	—	—	生販連携によるコスト削減、効率的な商品開発と販路開拓を実現 高鮮度冷凍製品の開発・製造、超低温冷凍庫（マイナス60℃）を用いた製品保管、生産者の所得向上 マレーシアを中心とした東南アジア向け販路開拓	①	サプライチェーン構築（輸出拡大） 品質管理水準向上 生産者への利益還元		西松 丸哲
52	水産物中東輸出拡大連携協議会	水産	輸出	—	—	AIと連動したロボットアームの導入による冷凍マグロ加工工程の省人化 アラブ首長国連邦・カタール等を中心とした中東向け販路開拓	⑤	サプライチェーン構築（輸出拡大） 生産性向上・省力化		三崎恵水産 広松
53	水産物バリューチェーン改善協議会	水産	輸出	—	—	高品質な日本産冷凍マグロの販路開拓 EU域内における冷凍マグロのマーケット調査、商品形態の検討、輸出に関する事務手続き マイナス18℃で保存可能な冷凍マグロの加工・包装技術の開発	②③	サプライチェーン構築（輸出拡大） 品質管理水準向上		東洋冷蔵 三菱商事 フード・ケアリ
54	アグリテック×ブランディング「ミガキイチゴ」	農業	国内	宮城県	山元町	最先端の作物栽培が体感できるKUBOTA AGRI FRONT内の「TECH LAB」でICTを導入したイチゴを栽培 複数の特定の品種を選んで育て、糖度や香り、サイズなどがある一定の基準を満たしたものだけを「ミガキイチゴ」と呼び、統一ブランド商品として出荷	①⑤	IT技術活用・技術継承 生産性向上・省力化 商品ブランド化（価値基準の設定）	●	Kubota
55	流通業務の効率化や可視化を行うツール「nimaru」	農業	国内	—	—	出荷者との集荷・販売連絡、送り状・販売原票の作成、資材の受発注など流通現場の様々な業務をスマホで手軽に行える新しいサービスを提供	④	生産性向上・省力化		kikitori
56	農家と顧客をデジタルでつなぐ新しい流通「やさいバス」	農業	国内	静岡県	—	デジタルを活用し地域で野菜を効率的に流通させる仕組みを構築 購入者から注文を受けた農家が、JA施設や青果店などの最寄りの「バス停」に野菜を持ち込み、 購入者（飲食関係者等）が地域の「バス停」に取りに来る 手数料は15%であるが、営業や買取等もやさいバスが対応する点が生産者から評価されている	③④⑤	受発注システム（マッチング） マーケットイン開発 物流・中間コスト削減 生産者への利益還元	●	やさいバス

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上											
■気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元											
#	事業等名称	分野	販路	主たる対象地域		取組概要	VC分類	VC構築キーワード	適性	主要関係者	
57	米のオンライン契約栽培 仲介サービス『アグリノート米市場』	農業	国内	新潟県	新潟市	オンライン上で様々な企業から提示された米の買い付けニーズを簡単に把握でき、そのままオンライン上で事前契約（播種前～収穫前の契約）を締結可能 大手米卸業者神明と繋がり、『大粒ダイヤ』という多収性品種の出荷契約をオンラインで締結	②③④	受発注システム（マッチング） マーケットイン開発 生産性向上・省力化	●	ウォーターセル	
58	売上拡大と事業効率化を支援する農業経営管理システム「スター農家クラウド」	農業	国内	－	－	収穫実績、農薬・肥料散布実績、受注管理、納品管理、請求管理、顧客管理等農業経営に関する様々なデータを集約したシステムを構築 経営情報を一元管理することで「売上拡大」につながる経営判断をサポートとともに業務効率化を実現	④	IT技術活用 生産性向上・省力化		クロスエイジ	
59	KUBOTA AGRI FRONT CAFE	農業 畜産	国内	北海道	北広島市	「北海道ポールパークFビレッジ」の敷地内に農業学習施設「KUBOTA AGRI FRONT」を開設 「“食と農業”的未来を志向する仲間づくりの場」をコンセプトとした取組みを展開	①	新規ビジネス 生産者と消費者の直接対話		Kubota	
60	食肉の生産から小売までを一貫して提供する食のSPA（生産小売）プロジェクト	農業 畜産	国内	北海道	厚真町	牧草和牛の一貫生産、精肉店、レストラン、卸売業などをワンストップで経営する畜産ベンチャー 世界初の「和牛メゾン」（滞在・宿泊型の「生産＆商談機能」を持った複合施設）の開設を目指す	①②	新規ビジネス 生産者と消費者の直接対話		GOOD GOOD	
61	官民協力による農産物流通システム改善プロジェクト	農業	海外	インドネシア	－	流通ルート、サプライチェーンの改善により流通コストの負担軽減 農家と卸売業者がパートナーシップ契約を締結し一定品質をクリアした商品の買取を保証。仲買業者を介さない流通により費用を圧縮	③	サプライチェーン構築 物流・中間コスト削減		JIICA	
62	特産品を活用した一村一品（OVOP）展開プロジェクト	農業	海外	キルギス	－	生産者が市場ニーズを把握し、地域の特産品を活用した付加価値の高い商品開発・販売に取組む ビジネスマッチングやプロモーション等も組合せて、消費者の選択肢を増やし、売上を延ばすことにより多くの生産者が利益を得られる仕組みを構築	①②	サプライチェーン構築 マーケットイン開発		JIICA OVOP+1（現地公益法人）	
63	SHEP&CARD	農業	海外	セネガル	－	「売るための農業」に転換するために栽培と営農のスキル向上、所得向上を目指す取組み。農家自身の市場調査により販売価格や売れ行きを把握し栽培に活かす バリューチェーンを見据えた取組みにより収益性の向上を実現	①②③	サプライチェーン構築 マーケットイン開発 生産者への利益還元	●	JIICA	
64	川上から川下までのバリューチェーンの構築に取り組む製材所（グループ内体制強化）	林業	国内	新潟県	阿賀野市	非住宅分野の需要拡大に向けて、施設・設備投資やJAS認証の取得等、体制強化・付加価値向上に取組む 川上から川下までの地元産の優良材の知名度向上を実現するバリューチェーンを構築し、新潟県産材の利用促進と地域の林業・木材産業の活性化を目指す	①②	サプライチェーン構築 商品ブランド化 グループ体制強化		坂詰製材所	

水産バリューチェーン参考事例一覧表

■水産バリューチェーン（VC）分類（出典：水産庁）：①付加価値向上 ②新規マーケット開拓 ③生産・物流面の課題整理 ④AI・DXの活用による課題解決 ⑤AI・DXの活用による付加価値向上											
■気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的：①生産者や魚市場への利益還元 ②気仙沼から消費者への情報・価値提供 ③消費者から気仙沼への情報・評価還元											
#	事業等名称	分野	販路	主たる対象地域	取組概要	VC分類	VC構築キーワード	適性	主要関係者		
65	サプライチェーンから“バリューチェーン”へ 広葉樹を通して森と人をつなぐ飛騨市の取り組み	林業	国内	岐阜県 飛騨市	飛騨市、林業者、木工業者、建築業者等による「飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム」を創設 広葉樹活用コンシェルジュがニーズのマッチングを支援し、広葉樹の新たな価値を創出するバリューチェーンの構築を推進	①③	サプライチェーン構築 商品ブランド化 マッチング		飛騨の森でクマは踊る 飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム		
66	新しい木材流通システムの構築（木材情報のクラウド共有）	林業	国内	埼玉県 秩父市	川下の建築工務店が川上の山林所有者を加えた新しい木材流通システムを構築し、ICT技術も活用した取組みを展開 トレーサビリティシステムの構築により、川上（山林）に価値を還元する事業の全国展開を目指す	①⑤	サプライチェーン構築 ICT技術活用 トレーサビリティシステム 川上への利益還元	●	森林パートナーズ		
67	木材バリューチェーンの構築（グループ化）	林業	国内	徳島県 三好市	徳島県三好市を中心に、川上（森林整備・素材生産）～川中（木材加工）～川下（木材需要創出・戸建住宅販売）等を結ぶバリューチェーンをグループで構築	①	サプライチェーン構築 グループ体制強化		SOLABLE フォレスト		
68	地域産品を活用した新たなバリューチェーン構築	菓子	国内	秋田県 秋田市	集荷から販売まで一貫したバリューチェーン構築を目指すJA 全農あきたとゆう幸との連携による新商品の開発 農林中央金庫が連携をコーディネート	②③	サプライチェーン構築 マッチング		農林中央金庫 ゆう幸		
69	国産材バリューチェーンの構築（マッチング）	林業	国内	—	地元製材工場と首都圏の需要者が有機的に繋がる仕組みづくりにより、国産材のバリューチェーンを構築 市内製材工場と他県ハウスメーカーのマッチングや企業分収造林プロジェクトにより持続可能な提供体制を構築	②③	サプライチェーン構築 マッチング		物林		
70	農林漁業者が個人の顧客に直接商品を販売するためのオンライン直売所「食べチョク」	食品全般	国内	—	生産者が生鮮品等を消費者に直接販売している日本最大のオンライン直売所。自治体との連携多数 「生産者のこだわりが正当に評価される世界へ」をコンセプトに事業を展開 青果物については従来比2倍以上の粗利確保を実現	①③④	受発注システム（マッチング） マーケットイン開発 物流・中間コスト削減 生産者への利益還元	●	ビビッドガーデン		
71											

適性凡例：

- …気仙沼における水産バリューチェーン構築の目的との関係性、他分野における優良事例等であり、研究会において特に取り上げる価値があると考えられる事例
- ★…気仙沼における取組み。研究会関係者も参加しており、取組みによる効果や課題等を確認することで、今後のバリューチェーン構築に活用することが考えられる事例

(事例1) 四国東南区バリューチェーン流通改善協議会（徳島県）

- 水揚・在庫情報のリアルタイム共有データベースの構築により、幅広い事業者からの商品アクセスが増加し、取引関係の構築を拡大
- 顧客のニーズに応じた加工製品の製造・出荷体制の構築
- 商品開発と販路開拓（販売実績約1.7倍に拡大）

【検討経緯・目的】

- ・徳島県では多品種少量の魚介類が獲れ、付加価値をつけて売る必要があった。
- ・漁獲情報や原料在庫情報などを共有できる電子システムを構築し、多品種少量の水産物を円滑に取引できる流通構造を実現することを目指した。
- ・多種多様な漁獲物を出荷できるようマーケットインの考え方に基づいて、魚種ごとに有望な市場を調査し、商品開発や販路開拓に取り組むことを目指した。

【取組内容】

- ・生産～販売段階の全体で水揚げや原料在庫等に関する情報を共有できるように産地側で情報共有システムの構築し、外部にも公開した。
- ・出荷先のニーズに合わせた水産加工品（フィーレ、味付け、油調理済みなど）の加工・出荷体制、トレーサビリティの確保した。
- ・介護業界、ホテル、飲食業界、一般家庭向けの商品開発を進めた。
- ・百貨店のインターネット販売やスーパー・マーケットへの販路開拓を進めた。

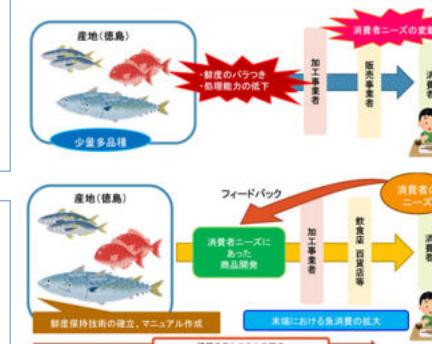
【取組みによる効果】

- ・受発注の効率化が実現し、多種多様な魚介類の取引が拡大した。
- ・出荷先となる各種業界に合わせた商品生産・出荷工程を整えることによって、多品種少量の魚介類の高付加価値化が実現した。
- ・多品種少量という特性を強みに変えた商品を開発・販売していくことで、安定した販売網を開拓し、安定した販売額の拡大を実現した（令和4年販売額：1,500千円）。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- ・サプライチェーン全体における情報共有システムの構築
- ・取引先からのニーズを把握し、ニーズに適う商品の開発
- ・商品販売先の多角化による安定的な販売網の構築と販売額の拡大

（出典）水産庁「水産バリューチェーン構築の取組（令和6年3月）」



事業全体像



構成員の知見をもとに製造された簡易調理品の加工品

県南マリンセンター 領域

県南マリン商品

県南マリン加工商品

県南マリン商品一覧

県南マリン加工商品

公開されているデータベースのWEBページ



コロナ禍で一般家庭用として開発した冷凍食品の商品

(事例2) バスあいのり水産バリューチェーン改善促進協議会

- 高速バス荷室を活用した水産物流通ルートの構築
- IoT端末を利用した貨物管理機能によるコールドチェーン構築
- 小ロット出荷や高鮮度商品の長距離輸送の実現により首都圏への販路拡大（販売実績約1.6倍に拡大）

【検討経緯・目的】

- ・小規模生産者でも水産物を出荷できる物流体制の構築が課題であった。
- ・全国各地を結ぶ高速バスの空き荷室を有効活用することで近年の燃油価格の高騰やトラックドライバー不足の問題を解消し、生産者の所得向上を実現を目指した。
- ・小ロットの水産物でも遠隔地へ出荷できる物流体制の構築を目指した。

【取組内容】

- ・独自に高速バスの荷室に小ロットの水産物を積んで運ぶ「バスあいのり便」物流システムを開発・運用した。
- ・水産物の温度を一定に保つため、専用の保冷ボックスと保冷剤を開発した。
- ・温度・湿度や位置情報をリアルタイムで伝達するIoT端末を開発した。
- ・首都圏を中心に販促イベントの開催や名産品の掘り起こし、生産者と消費者の共同での商品開発などの取り組みを展開した。

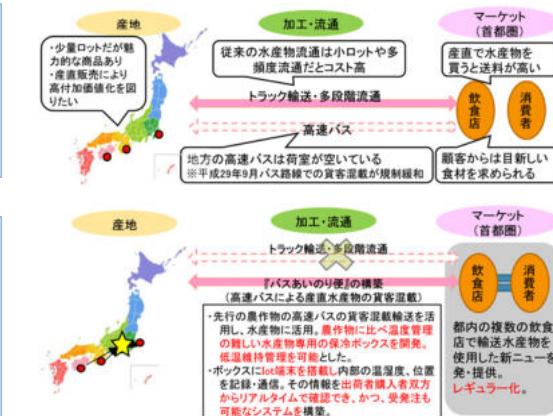
【取組みによる効果】

- ・小ロット出荷の実現と協力産地・路線の拡大を実現した（令和4年度実績：7,500千円）。
- ・地方の生産者やバス会社などに新たな収入源を確保した。
- ・希少性と品質の高さが評価されるようになり、高い商品価値を持った食材として認識された。
- ・首都圏に限らず、地方間での水産物取引の流れが生まれた。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- ・異業種連携による物流課題の解決と安定的な物流体制の構築、双方にメリットがあるビジネスモデルの構築
- ・IoT技術を活用した品質管理と付加価値向上
- ・出荷体制の構築と付加価値向上による希少性、品質等の消費者評価の向上

（出典）水産庁「水産バリューチェーン構築の取組（令和6年3月）」



事業全体像



IoT端末を搭載した保冷ボックスで佐渡市から出荷されたスルメイカ



福島県会津若松市～新潟県佐渡市間で運行しているバスあいのり便



アップクオリティが経営するレストランと提供される高知県産のカツオ・シラス

(事例3) 西日本地区バリューチェーン流通改善協議会（長崎県）

- 温度管理システムによる管理体制の構築や選別システム導入などによる工程の効率化等サプライチェーンの改善を推進
- 併せて生協組合員との交流会により消費者の商品ニーズについて情報収集を行うとともに消費者ニーズを反映できる生産～加工～販売の流れの構築に取組むことで販路拡大（販売実績約2.8倍に拡大）

【検討経緯・目的】

- ・品質管理技術が船団によって異なり、産地卸売市場に水揚げする魚の鮮度に大きな差が存在していた。
- ・漁獲から販売に至るまで一貫した魚の品質管理体制の構築が必要であった。
- ・産地卸売市場での選別に係る省力化・省人化による機能の維持が課題であった。

【取組内容】

- ・魚艙内の温度推移や、漁獲物の温度・鮮度を測定及び分析し、温度管理システムを構築し漁獲物の品質管理を強化（ICTの活用等含む）をじつげんした。
- ・新たに選別工程にベルトコンベアを導入した。
- ・将来的な労働力の減少を見越した選別荷役処理システムの構築と実用化した。
- ・AIを用いた画像解析技術の導入による自動魚種別の実現を視野に入れ検討を進めた。
- ・消費者のニーズに沿った商品開発、販売戦略を推進した。

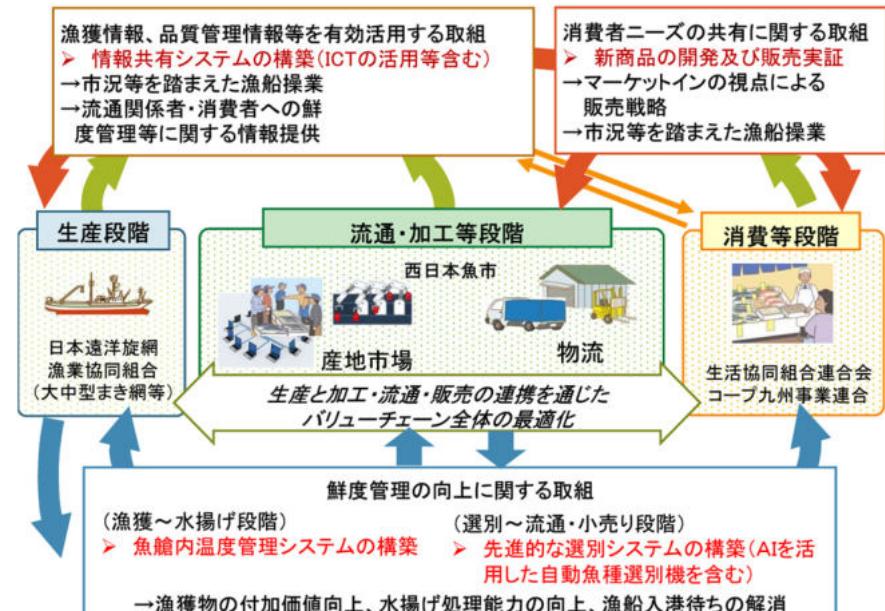
【取組みによる効果】

- ・遠洋漁協に所属する漁業者の間で漁獲物の鮮度管理に対する意識の向上と統一化を実現した。
- ・主要取引先であるコープ九州との連携により、製品の売上金額は年々増加している（令和4年実績：161,739千円）
- ・ベルトコンベアの導入により選別作業速度の高速化を実現した。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- ・情報管理・品質管理体制整備や設備投資、システム導入等による省力化等将来を見据えたサプライチェーン全体の改善・効率化
- ・主要取引先との連携による消費者や商品ニーズの性格な把握
- ・生産者側が有する鮮度管理等の付加価値の流通関係者・消費者等への情報提供

（出典）水産庁「水産バリューチェーン構築の取組（令和6年3月）」



事業全体像

冷凍のまま調理できるアジフライと
解凍するだけで食べられる海鮮醤油漬け

(事例4) JFバリューチェーン改善検討協議会

- マーケットイン型の商品で無駄なコスト削減や外食産業等のノウハウを活用した消費者への情報発信、国産水産物の消費拡大と魚食普及、プライドフィッシュや地魚を活用したメニュー・商品企画・開発に取組む
- 浜(産地)と消費者を結ぶ通信販売システムの構築により漁業現場のもつ価値(コト)を商品と合わせて流通させる仕組みづくりを推進

【検討経緯・目的】

- 漁業現場の情報が消費者に伝わりづらく付加価値の向上が困難であることに加え、近年、消費者の購買行動が変動しており、消費者のニーズに合わせた商品販売が求められていた。

【取組内容】

- 通信販売事業のシステムを構築し、産直販売による消費者とのダイレクトマーケティングを実施するとともに、通信販売事業の効率的な運営と省人化を図った。
- 通信販売事業によって得られた顧客データの蓄積と分析を基に、マーケットインの視点による商品企画・開発と改良に向けて漁連・漁協・産地へフィードバックを行った。
- 通信販売事業とは別に消費地に実店舗を展開し、実店舗で品質を確認した後にECサイトで注文・購入ができる体制を構築した(リアル・オンラインの併用)。
- プライドフィッシュや地魚を活用したメニュー・商品の企画・開発について外食産業等と連携し、試験販売・提供を行い、消費者と需要者のニーズとトレンドを把握した。

【取組みによる効果】

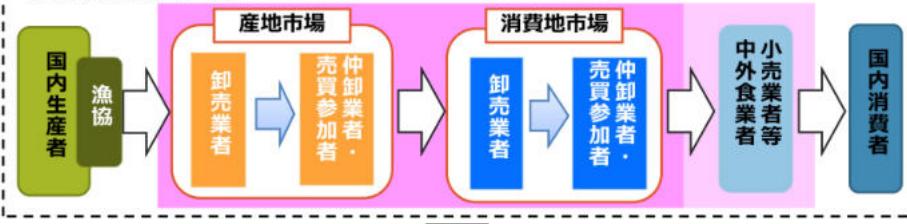
- 通信販売システムを構築することにより、消費者と直接的なマーケティングを実施することが可能となり、漁業現場の持つ価値をダイレクトに消費者に伝えつつ、ニーズやトレンドを把握することが可能となった。
- 外食産業等と連携することで、川下のノウハウも活用しながら、生産者の顔が見える商品を販売することが可能となった。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

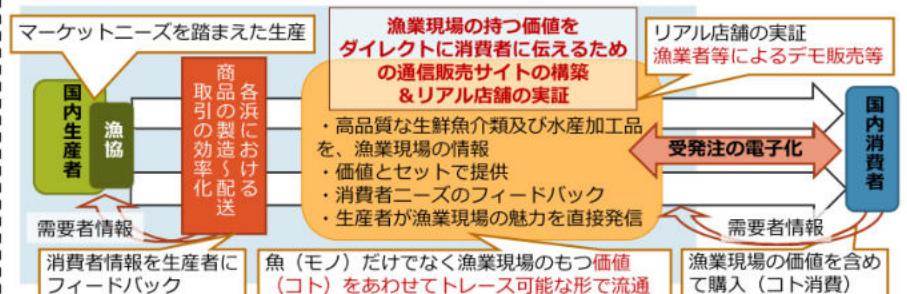
- 産地と消費者を直接つなぐ受発注システム(マッチング)の構築による消費者ニーズの把握とニーズに即した商品販売の展開
- ICTを活用した消費者への商品魅力や産地情報の直接的な情報・価値提供等のコミュニケーションスタイルの確立

(出典) 水産庁「水産バリューチェーン構築の取組(令和6年3月)」、全国漁業協同組合連合会

- 卸売市場を通じた多段階流通は水産物の特性(生鮮で迅速な処理が必要)に応じた仕組みであるが、情報や価値の伝達には弱く、漁業現場の価値が埋没する(いつ、誰が、どこで、どうやって、誰のために獲った魚なのか?)



- 多数の事業者が介在する多段階流通システムを、通信販売サイトと連動したIT技術等の活用で産地サイドの取組として統合・内在化することで、漁業現場の価値と消費者のニーズを、漁業現場と消費者が相互に伝えあえるシステム(トレース可能、顔が見える、価値が伝わる)を構築



事業全体像

プライドフィッシュプロジェクト

(事例5) Ocean to Table Council (千葉県/鹿児島県)

- 変更、削除、改ざんができないブロックチェーン技術を用いたトレーサビリティシステムの構築
- 消費者がQRコードで商品の経歴を閲覧可能な状態にし、その漁獲物の価値を見える化
- トレーサビリティが付加された水産物の販路開拓

【検討経緯・目的】

- ・ ブロックチェーン技術と食のトレーサビリティは親和性が高いと考え、具体的なサービス内容の検討することとした。
- ・ 東京湾で漁獲される魚介類等の来歴を消費者に伝えることによる高付加価値化を目指す。

【取組内容】

- ・ 既存の漁労IOT (ISANA) より漁場、漁獲時間等の漁獲データを抽出し、トレーサビリティシステムへ連携することででの漁獲物の価値を見える化した。
- ・ 凍結時間を短縮し、作業効率の向上を図るため、液体凍結機を導入した。
- ・ 漁獲から販売にいたる商品の情報をQRコードに集約し、QRコードを商品に貼り付けて販売 (江戸前フィッシュパスポートの構築)
- ・ トレーサビリティシステムを活用した商品の試験販売を実施した。本件では、フーディソンが自社店舗による商品の販売、PRに協力している。

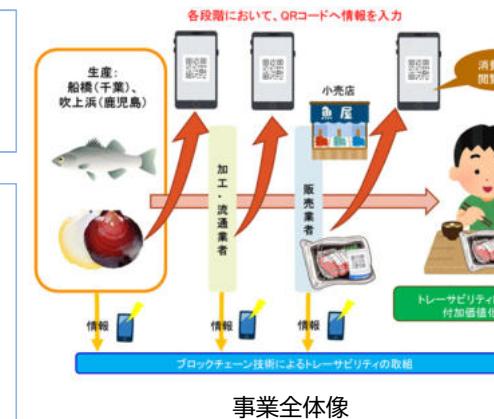
【取組みによる効果】

- ・ ブロックチェーン技術を活用したトレーサビリティシステムを確立した。
- ・ 価値の見える化と凍結加工に係る作業効率化を推進した。
- ・ 店舗における試験販売を通じた消費者へのPRを推進した。
- ・ トレーサビリティ情報を付加価値として付加することにより、スズキは魚価が10%、ツキヒガイは30円/枚が250~350円/枚と魚価が向上した。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- ・ 産地側の付加価値情報を商品に付加することにより販売価格が向上し、生産者への利益還元を実現
- ・ 漁業者や販売業者が「魚価の向上」や「顧客への商品販売・提案におけるトレーサビリティ情報の付加価値としての可能性」を実感

(出典) 水産庁「水産バリューチェーン構築の取組（令和6年3月）」



(事例6) JFライブコマース検討協議会（兵庫県）

- 情報通信技術を活用した水産物の通信販売サービスの実現やエンターテインメント性を持ち込んだ販売プロモーションを推進
- マーケットインの視点による商品の企画・開発、消費者ニーズに対応した加工、出荷と配送作業等の効率化、ライブコマースを活用した水産物の販売に取組む

【検討経緯・目的】

- ・ 消費者の食の志向が変化し、国民一人一年当たりの魚介類の消費量は著しく減少しており、魚介類の消費増大のためには、ニーズへの対応が不可欠との認識があった。
- ・ 情報通信技術を活用した水産物の通信販売サービスの実現を目指す必要があった。
- ・ エンターテインメント性を持ち込んだ販売プロモーションの推進を目指す。

【取組内容】

- ・ NTT Comの低遅延ライブ配信プラットフォーム「Smart vLive」を活用したライブコマースによる水産物の実証販売（全3回）を実施した。
- ・ 魚介類の旬や消費者からのフィードバック（初回実施以降）を踏まえ、ライブコマースで実証販売する販売対象の魚を選定し、消費者ニーズに合った加工を実施した。
- ・ デジタル技術の活用により、ターゲット市場やサービス内容等、ライブコマースのビジネスモデル等を検討した。

【取組みによる効果】

- ・ 水揚げされた新鮮な水産物の魅力を消費者参加型のライブ配信で紹介し、配信後には紹介した海産物をECサイトで販売する方法を確立した。
- ・ 消費者は、産地魚市場で買い物をするように商品の説明を聞き、チャット機能により生産者と対話をしながら買い物でき、生産者は販売を通じて消費者のニーズを取り込むとともに、能動的な情報発信を行うことが可能となった。
- ・ 1度ライブコマース配信を見た消費者が、複数回、商品を購入するケースも見受けられた。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- ・ 生産者と消費者の直接対話による商品PRと消費喚起、提案・販売
- ・ ICTを活用した消費者への商品魅力や産地情報の直接的な情報・価値提供等のコミュニケーションスタイルの確立

（出典）水産庁「水産バリューチェーン構築の取組（令和6年3月）」、NTTコミュニケーションズ株式会社プレス発表資料（令和5年1月6日）



(事例7) 新幹線高速物流検討協議会(鹿児島県)

- 新幹線による朝獲れ水産物の大口高速輸送
- ICTシステムにおける水産物の販売に向けた検討(産地と消費者をつなぐ受発注用アプリの開発)
- 中間物流コストを軽減し、生産者の利益拡大

【検討経緯・目的】

- 従来の流通においては、長時間輸送による鮮度の低下、トラックドライバー不足、航空貨物供給量の縮小等、多くの課題に直面していた。
- ICTシステムと連携した新幹線物流の構築により、消費者の手元に届くまでのリードタイムを短縮する物流体制の確立を目指した。
- 消費者ニーズに対応した販売による水産物の高付加価値化を目指した。

【取組内容】

- 新幹線を用いた輸送によって、朝獲れの高鮮度な水産物を当日中に顧客へ配達した。
- 1日に複数の便数がある新幹線による輸送により、柔軟な発送を可能とする物流を構築した。
- 産地と消費者を直接つなぐ受発注システムを構築し、消費者ニーズに合った商品展開・販売することを推進した。
- 産地と消費者を直接つなぐことで、通常の物流で発生している中間物流コストを軽減し、生産者の利益拡大に繋げた。

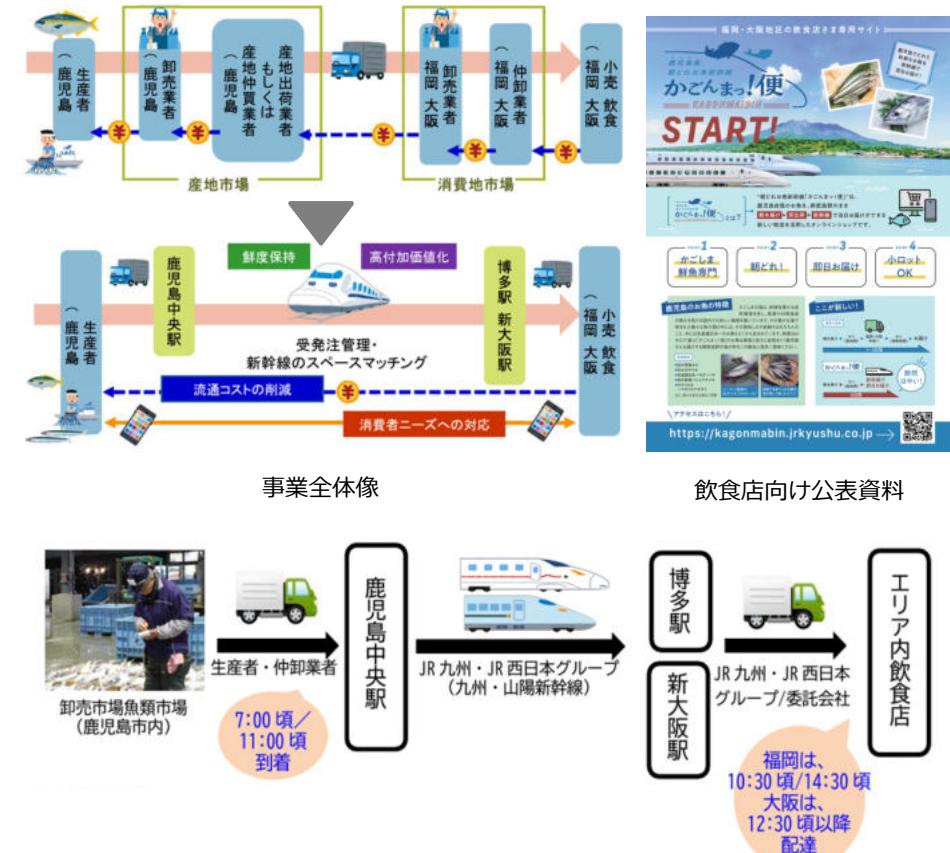
【取組みによる効果】

- 新幹線の荷室を活用した水産物の高速輸送により、当日朝獲れた水産物の即日出荷・配達や、物流時間の短縮による付加価値向上を実現した。
- 生産者と消費者をつなぐ受発注アプリの開発により、生産者が消費者ニーズを把握したうえでコストを削減し、ニーズに対応することが可能となった。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- 産地と消費者を直接つなぐ受発注システム(マッチング)の構築による消費者ニーズの把握とニーズに即した商品販売の展開
- 直接販売による物流の中間コストの軽減
- コスト削減に伴う生産者利益の拡大

(出典) 水産庁「水産バリューチェーン構築の取組(令和6年3月)」、JRグループプレス発表資料(令和4年12月23日) サプライチェーン全体像(輸送方法・輸送フロー)



(事例8) 福井県水産バリューチェーン改善協議会（福井県）

- 県産ブランド養殖魚について活魚車の導入により活魚での安定供給を図るとともに生産情報や在庫状況を関連付けた受発注アプリを整備しスムーズな受発注を実現
- アプリの機能を用いて販売業者や飲食店からの意見を生産者にフィードバックすることで連携体制を構築

【検討経緯・目的】

- 小規模な沿岸漁業が主流であり高齢化や環境変動により県内の漁獲量が減少していた。
- 養殖魚について地域ブランドを創出し、認知度向上に向けた関係者の連携を推進することを目指した。
- 生産者と流通業者、販売業者等をシステムでつなぎブランド魚の供給体制構築を目指した。

【取組内容】

- 天然魚アカアマダイおよびアカガレイについて一定の基準を設けて「若狭ぐじ」、「越前がれい」として生食用出荷による需要獲得を目指しブランド化した。
- 「敦賀真鯛（マダイ）」および「若狭ふぐ（トラフグ）」等、品質の見える化や他産地の養殖魚との差別化を推進した。
- 県産ブランド養殖魚について活魚車の導入により活魚での流通を推進した。
- 受発注アプリ（「いくら」）の開発による受発注システムの構築を推進するとともに、北陸新幹線の開通に合わせた各種販促活動の推進した。

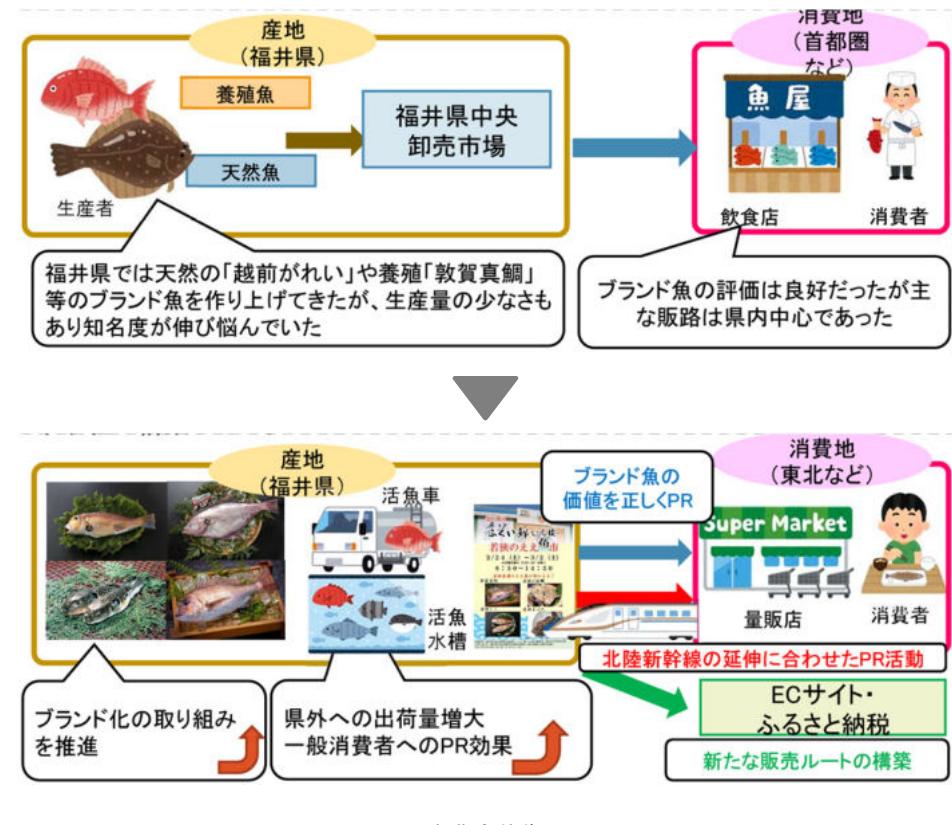
【取組みによる効果】

- 県産ブランド養殖魚について活魚車の導入により活魚での安定供給を図るとともに生産情報や在庫状況を関連付けた受発注アプリを整備しスムーズな受発注を実現した。
- 発注アプリを活用し生産・流通状況を見える化するとともに、アプリの機能を用いて販売業者や飲食店からの意見を生産者にフィードバックすることで連携体制を構築した。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- 県内で漁獲される水産物について、消費者に価値を提供するため基準を設けてブランド化
- 「価値」を正しく提供しながら遠方消費地への販路を開拓・拡大
- 卸売市場（産地）と取引先（鮮魚店・小売店・ホテル等）との間で入荷・在庫情報をリアルタイムで共有し、発注が可能な受発注システム（マッチング）を開発

（出典）水産庁「水産バリューチェーン構築の取組（令和6年3月）」



(事例9) しものせきデジタル水産業推進コンソーシアム（山口県）

- 下関漁港（卸売市場）の生産者、卸売業者、買受人、消費者、行政等が連携
- デジタル情報を収集し、ニーズに応じてデジタル情報を活用することで、省人・省力化、作業効率の向上、コスト削減、売上高の向上など漁港の高度化を推進

【検討経緯・目的】

- 生産者と卸売業者間はデータ共有が行われているが、セリなど卸売市場のデジタル化と買受人とのデータ連携は進んでいない。
- 生産現場で導入されている既存アプリを活用しながら卸売市場のデジタル化を目指す。セリ方式はシステム上では3パターン（先取り、通常セリ、システムセリ）が可能で、卸売業者と買受人はセリに関する情報の共有を目指す。

【取組内容】

- 「生産者用アプリ」「卸売業者 が使用するアプリ」「買受人用アプリ」の3種類のアプリ開発を目指す。
- デジタル化されたセリ結果情報は卸売業者や買受人、生産者に速で配信され、エクセル等のファイル形式でダウンロードすることを可能とする。
- セリ人および買受人の作業の効率化、労働時間の削減、セリ結果確認のデータベース化などが可能となる。

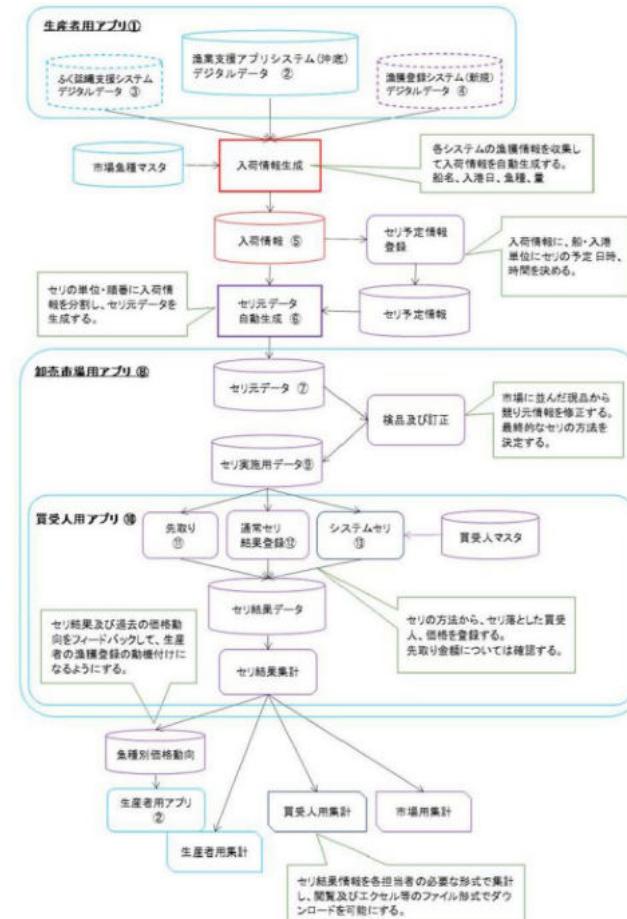
【取組みによる効果】

- サプライチェーン全体における「作業効率化」「サービスの質向上」「コスト削減」「新規サービス・ビジネス及び販路拡大」「産地市場のトレーサビリティ確保」「買受人の効率化」を目指す。
- その他、「他地域でのICT導入促進」「（デジタル情報の活用による）競争力強化」「情報セキュリティ・データ漏洩に対するリスク軽減」等の効果発揮も期待している。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- 令和8年度中の「デジタル」バリューチェーン構築、令和9年度以降の横展開を目指しており、気仙沼と同時期にデジタル水産業の確立を目指す取組み
- 生産者、卸売業者、仲卸業者をデジタルでつなげるシステムを構築とデジタルが一気通貫する市場内の仕組みの構築（E-1・E-2の連携）

（出典）水産庁「デジタル水産業戦略拠点事業計画書（しものせきデジタル水産業推進コンソーシアム）」



(事例10) 流通プラットフォーム「羽田市場」

- 従来の卸売市場を介さず、生産者と消費者を直接結びつける新たな市場機能を提供
- デパート、スーパー、すし、海鮮居酒屋などの法人の客様と一般のお客様を対象としたサプライチェーンを構築
- トレーサビリティを実現するために、ケース単位で、産地、漁師の氏名、水揚げ日時、種類、漁法などを管理

【検討経緯・目的】

- 水産物の流通は「産地卸売市場」と「消費者卸売市場」が存在することなどにより流通経路が複雑で、商品が消費者に届くまでに時間を要する。
- 水産物は鮮度を保つために輸送中の冷蔵・冷凍が必要となるため、輸送費が高くなり、漁師への配分が少なくなる傾向がある。
- 地方で鮮魚を直接仕入れ、羽田空港をハブとした空輸により、朝一番に獲れた魚を同日中に消費者に届ける、流通プラットフォーム「羽田市場」を設立した。



【取組内容】

- 漁業協同組合などから鮮魚を直接仕入れ、システムに入力(産地、漁師氏名、水揚日時、種類、漁法等)することによりトレーサビリティの実現を目指した。
- 鮮度保持のため船上で血抜き処理などを行った後に空輸し、羽田鮮魚センターのHACCP認証や米国FDA施設登録された高い衛生基準を満たした施設で、仕分け・加工・真空パックを行う。
- Webサイトなどから受注し、入荷当日中に配達する。



【取組みによる効果】

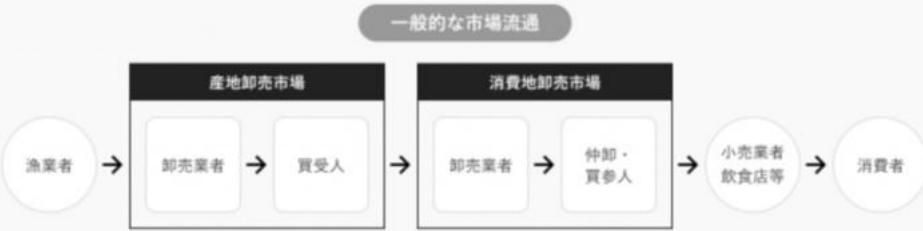
- 市場に安全かつ質が高い鮮魚を安定的に届ける新たな仕組みを作ることにより、生産者(漁師)の利益拡大と消費者の費用負担軽減の双方を実現している。
- 羽田市場が、集荷・仕分・価格形成・輸送・決済を一括して行うことによって流通コストの低減を実現した。



【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- Webやデータベースの技術を活用したトレーサビリティシステムや受発注システムの開発
- 産地と羽田市場の直接的な受発注システム(マッチング)の構築による流通コストの低減、生産者の利益拡大、消費者の費用負担の軽減
- 産地や漁師の名称明記による消費者の安心感や産地認知度等の向上

(出典) 羽田市場株式会社、スマートIoT推進フォーラム



「羽田市場」を活用した鮮魚販売



サービス概要

(事例11) AIスマート給餌機によるハマチ養殖

- AI・IoT技術を活用したスマート給餌機「UMITRON CELL（ウミトロンセル）」を活用したハマチのスマート養殖に日本で初めて成功
- AIやIoT技術の導入による更なる効率化・省力化を進めることで、消費者に安定した魚の供給量確保、リーズナブルで高品質な商品提供を目指す

【検討経緯・目的】

- ・「人手不足」「不安定な収入」「労働環境の厳しさ」などが大きな課題となり、スマート養殖による委託養殖を進める取り組みとして、AI・IoT活用のスマート給餌機「UMITRON CELL」の導入を開始した。
- ・社会情勢の影響で価格高騰が続く工賃や漁船の燃料費の削減、作業負荷の軽減、無駄な餌が海に流出することを防ぎ、環境負荷の低減に貢献することを目指した。
- ・ハマチを成魚まで生育し出荷することを目指した取組みを進めてきた。

【取組内容】

- ・人が目視で食欲状態を確認する給餌方法から搭載されているAIが魚の食欲をリアルタイムで画像解析し、給餌の量やタイミングを最適化することを目指した。
- ・スマートフォンなどの端末から遠隔で生け簀の魚の様子をモニタリングしながら給餌がいつでも、どこでもできる状況を確立した。

【取組みによる効果】

- ・スマート給餌機で養殖したマダイを「AI桜鯛」として、初めて全国販売したほか、初のハマチ養殖にも成功した。
- ・遠隔で適切なタイミングで餌を与えることが可能となり、従来より少ない給餌で、出荷時のサイズや品質を保ちながら短い期間で生育することに成功した。
- ・餌の量を従来比約1割削減することに成功し、費用削減や環境負荷の軽減に貢献した。
- ・給餌を遠隔操作に切り替えることで、労働負担の低減や燃料代が削減した。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- ・システム会社と飲食店の協業によるサプライチェーンの確立、商品の付加価値の向上
- ・AI・IoTを活用することによる生産性向上や省力化
- ・消費者に対する安定した魚の供給量確保とリーズナブルで高品質な商品提供

(出典) ウミトロン株式会社、KURA おさかなファーム株式会社



スマート給餌機 UMITRON CELL



AI・IoT技術を活用したスマート給餌機「UMITRON CELL」

(事例12) アグリテック×ブランディング「ミガキイチゴ」 (宮城県)

- 最先端の作物栽培が体感できるKUBOTA AGRI FRONT内の「TECH LAB」でICTを導入したイチゴを栽培
- 複数の特定の品種を選んで育て、糖度や香り、サイズなどがある一定の基準を満たしたものだけを「ミガキイチゴ」と呼び、統一ブランド商品として出荷

【検討経緯・目的】

- 植物品種には育成者権（知的財産権の一種）があり、期限が切れると誰でもつくれるようになるため、25年後にはブランド価値がなくなってしまう。
- 農業は天候などの外部的要因をダイレクトに受けやすい産業のため、ITを駆使して供給量を安定させる必要がある。
- ブランド価値の向上と市場拡大を目指し、ICT技術も活用した生産・出荷体制を目指した。



【取組内容】

- 品種や栽培方法の選定など一定基準（糖度・香り・サイズ等）を満たした商品を「ミガキイチゴ」としてブランディング化した。
※「ミガキイチゴ」は品種の名称ではなく、上記の基準を満たした商品の名称
- 農業従事者のうち、ベテランの勘と経験を、ITの力を借りて高い精度で再現し、最適な栽培環境を維持することで、いつでも安定して上質いちごを生産することを可能とした。
- 若い世代に技術を伝え、技術支援による農業人口増加の一助を担うことを目指した取組みを続けている。



【取組みによる効果】

- アグリテック（農業×ICT）を用いた生産技術の向上とブランディングを推進した。
- 商品ブランドに関する認知度が向上により国内外での需要が増加した。
- 技術の習得・継承等を支援することで持続可能な農業を実現している。



【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- デジタル技術を活用した生産性の向上
- 糖度や香り、サイズなど消費者が理解できる項目を用いながら独自の基準に基づく商品のブランディング
- 熟練者の技術をIT化や形式知化により継承（持続的な産業の確立）

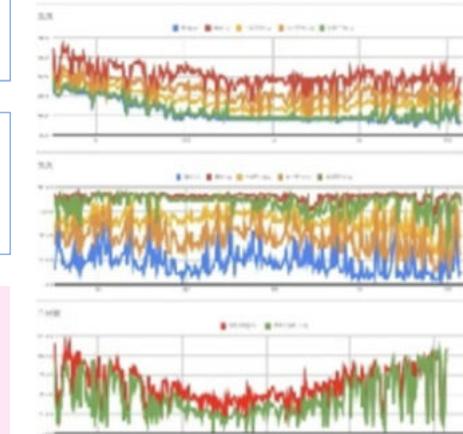
（出典）株式会社クボタ



クラウン冷却システム



ブランド化商品「ミガキイチゴ」



ハウス内の温度、湿度、日射量、CO₂濃度、風量、循環させる養液の濃度や量などをリアルタイムでモニタリングし、最適な環境をコンピュータで自動的に制御

(事例13) 農家と顧客をデジタルでつなぐ新しい流通「やさいバス」 (静岡県)

- デジタルを活用し地域で野菜を効率的に流通させる仕組みを構築
- 購入者から注文を受けた農家が、JA施設や青果店などの最寄りの「バス停」に野菜を持ち込み、購入者（飲食関係者等）が地域の「バス停」に取りに来る
- 手数料は15%であるが、営業や買取等もやさいバスが対応する点が生産者から評価されている

【検討経緯・目的】

- ・ 農業物流の社会課題を解決するため、地産地消を担う地域の共同物流サービスの設立した。
- ・ 輸送コストの削減と効率化を目指している。
- ・ 共通の作業をデジタル化し効率化することで、農家（生産者）・仲卸業者（流通関係者）・顧客（消費者）の三方にあってメリットがある仕組みを構築する。

【取組内容】

- ・ 巡回物流網と連動するECサイトを構築した。
- ・ 物流網の中で「バス停」と称する集配拠点を冷蔵トラックが周回し、生産者から出荷された農産物の鮮度を落とさず届けることで、物流コストを削減している。
- ・ 生産者が価値を付け、実入りを増やすビジネスモデルの構築を進めている。

【取組みによる効果】

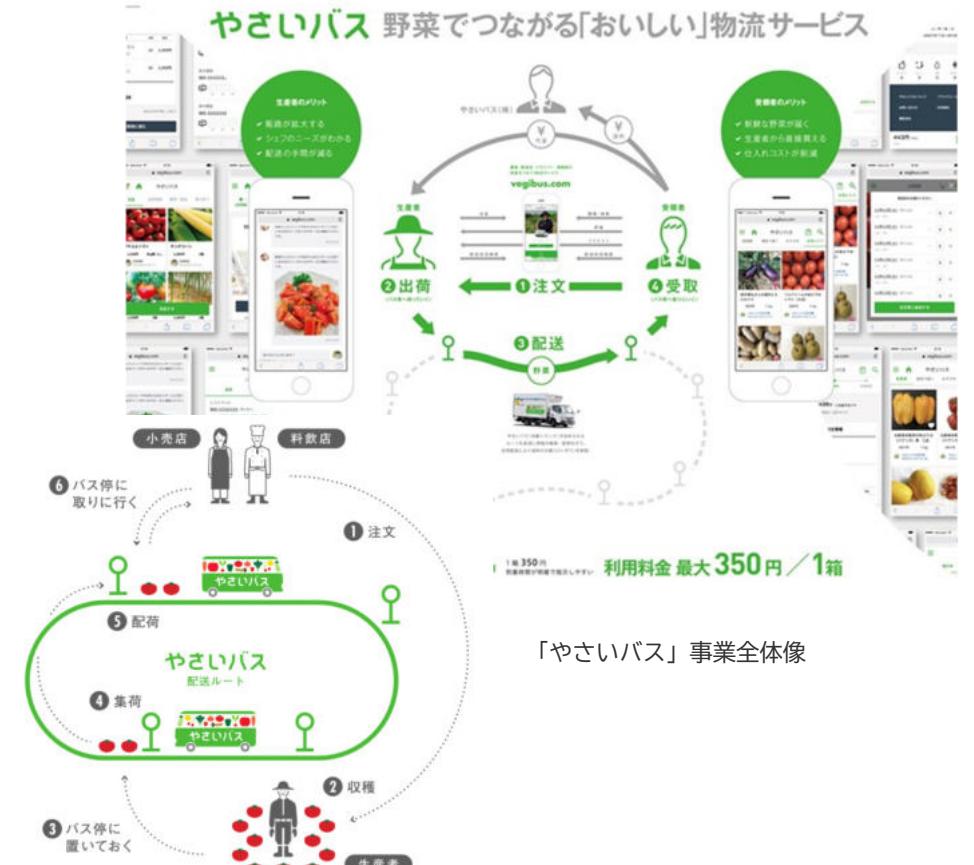
- ・ 共同配送システムで物流コストを削減することに繋がっている。
- ・ 受発注方式であるため、バス停にて、出荷・受取を行う。そのため、配送の手配や伝票処理をする必要がない。
- ・ 手数料は15%であるが、やさいバス側が営業も実施し、買取まで面倒を見てくれることに対して評価の声がある。

※静岡県内（一部）では「さかなバス」も運行されているが、水産物は難易度が高い。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- ・ 生産者・消費者を介する中間事業者との連携・マッチング
- ・ 産地と消費者を直接つなぐ受発注システムの構築による消費者ニーズの把握とニーズに即した商品販売の展開
- ・ 直接販売による物流の中間コストの軽減と生産者利益の拡大

（出典）農林水産省「農業DXの事例紹介（令和3年7月）」、やさいバス株式会社



(事例14) 米のオンライン契約栽培仲介サービス『アグリノート米市場』 (新潟県)

- オンライン上で様々な企業から提示された米の買い付けニーズを簡単に把握でき、そのままオンライン上で事前契約（播種前～収穫前の契約）を締結可能
- 大手米卸業者神明と繋がり、『大粒ダイヤ』という多収性品種の出荷契約をオンラインで締結

【検討経緯・目的】

- 新品種導入に伴う新規販路開拓や価格変動に対する不安が農業者の負担になっている。
- 新品種導入と販路拡大の課題を、スマート農業・農業DXを活用して解決することを目指した取組みを進めることとした。
- 需要に応じた生産・販売の実現による生産性向上や所得向上を目指すこととした。

【取組内容】

- 専用のアプリケーションを使用し、時間、場所を問わず生産者と取引先の間で効率的な取引を行うことを可能とした。
- 販路開拓、契約栽培の契約締結、集出荷手続きをすべてオンラインで実行できる農業DXの仕組みを取り入れ、米の新規販路開拓を目指した取組みを進めている事業者がいる。
- 価格決定のタイミングを分散し、買い手、売り手双方の経営安定化を支援するほか、事前契約や現物契約で安定した取引を実現した。

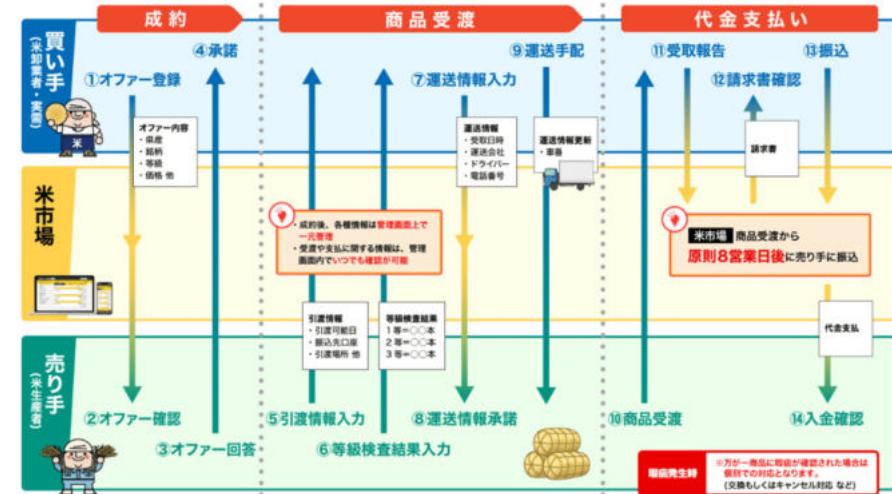
【取組みによる効果】

- インターネットで時間、場所を問わず取引が可能となるため生産者・取引先双方の負担を軽減することを実現した。
- 「事前」「現物」「複数年」の契約に対応することで農業者（生産者）の経営安定化を支援した。
- 大手事業者との販路の拡大や取引の効率化等を実現している事業者も見られる。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- デジタル技術を活用した生産性向上や経営課題の解決
- 産地と取引先（消費）を直接つなぐ受発注システムの構築による取引先ニーズの把握とニーズに即した商品販売の展開
- 新規の販路開拓や作業・費用負担の軽減等による農業者（生産者）の経営安定化

（出典）新潟市「米の新規販路開拓に関する農業DXの取り組み」、ウォーターセル株式会社



《成約後の納品から入金までの業務も一元管理できます》



農業支援アプリ「アグリノート」全体像と関係者メリット

(事例15) SHEP&CARD (セネガル)

- 「売るための農業」に転換するために栽培と営農のスキル向上、所得向上を目指す取組み。農家自身の市場調査により販売価格や売れ行きを把握し栽培に活かす
- バリューチェーンを見据えた取組みにより収益性の向上を実現

【検討経緯・目的】

- セネガル国内では人口増加によって園芸作物の消費が増加しており、農業者（生産者）にとっては事業拡大の機会であるが、収入が伸び悩んでいた。
- 2017年から「市場志向型農業振興アプローチ（SHEP）」を開始し、「作って売る」から「売るための農業」への意識変革を起こすことを目指している。

【取組内容】

- 農家（生産者）が生産している作物の種類や販売価格、コスト・利益を把握等「事業収支」を把握し、改善事項を把握する。
- 農家（生産者）自身による市場調査を実施し、販売価格や消費者ニーズを把握することで、何を作り、いくらで売れば儲かるか、自ら考える「経営力を有する」農家の育成を支援した。
- 品質向上のための精米機材の導入、機械指導などのバックアップをJICAが実施するとともに、小規模農家に対する助言・指導・技術支援を実施するための体制を強化した。

【取組みによる効果】

- 資材の投入、流通、販売の各段階のバリューチェーンを見据えて生産に取組むことで収益性が向上した（2年間で小規模農家2,500件の収入が倍増した）
- 市場の情報・ニーズを確認し、計画、栽培、収穫、販売を行うなど新しいビジネスモデルを確立した。
- 対象地域のフードバリューチェーンにおける関係者間の関係が強化された。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- 農家（生産者）が自ら市場調査を実施し、販売価格や消費者ニーズ等を把握
- 市場調査結果を踏まえた事業計画等の立案による「儲かる」ビジネスモデルへの意識変革や取組変革の推進

（出典）独立行政法人国際協力機構（JICA）「ひと目でわかるフードバリューチェーン」



市場志向型農業振興アプローチ「SHEP」（セネガル）

※SHEP : Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion

2006年からケニア農業省とJICAの技術プロジェクトで開発された小規模園芸農家支援のアプローチ。「売るための農業」への転換を目指す。

(事例16) 新しい木材流通システムの構築（木材情報のクラウド共有）（埼玉県）

- 川下の建築工務店が川上の山林所有者を加えた新しい木材流通システムを構築し、ICT技術も活用した取組みを展開
- トレーサビリティシステムの構築により、従来、価値の還元が不十分であった川上（山林）に対して十分な価値を還元するビジネスモデルを確立し、業界発展に向けた全国展開を目指す

【検討経緯・目的】

- 補助金に頼らない持続可能な林業を設計し、ビジネスとして自立できる仕組みづくりを推進することが課題となっていた。
- ICTを活用した木材流通の情報共有により、山元での集材からユーザーまで、価値を付けて安定供給するバリューチェーンを構築し、山元に利益を還元することを目指した。

【取組内容】

- 木材流通のトレーサビリティを確立するため、ICTにより各事業の連携を推進し、流通と木材利用の最適化を図ることとした。併せて、各種情報はクラウドで共有することとした。
- 厳しい基準を設け、基準を満たした優良材を「SPウッド」と名付け、ブランド化することによる価値創造を推進した。
- 木材流通において発生する利益を山元に還元することで、山主の利益拡大を図り、林業の成長産業化、持続可能な産業構造の確立に向けた取組みを進めてきた。

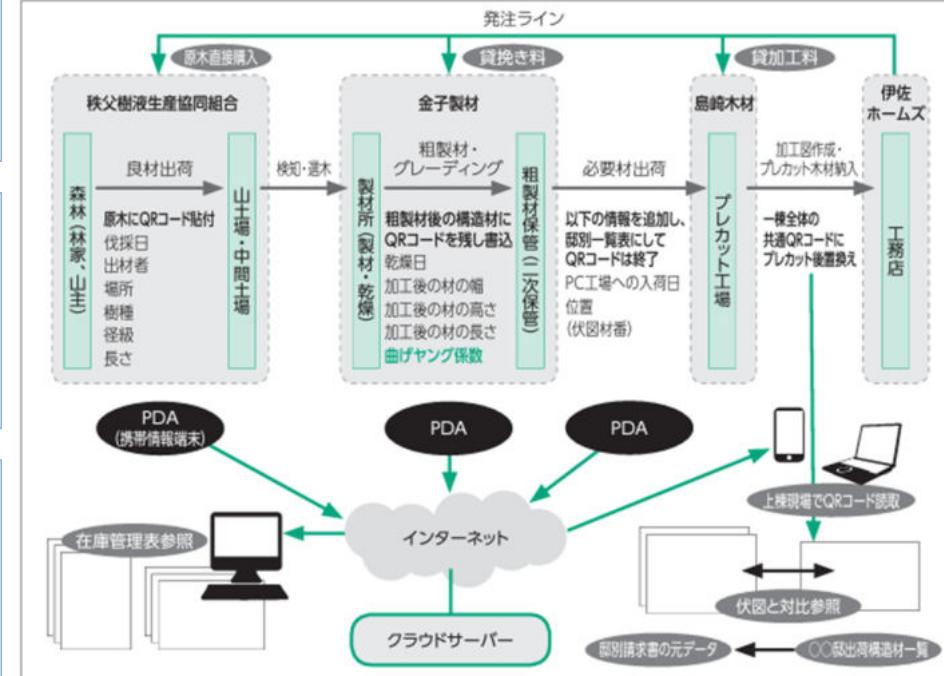
【取組みによる効果】

- 従来と比較して流通コストの5割以上を削減することに成功した。
- 山主、製材業者、プレスカット業者、工務店、施主のバリューチェーン各段階関係者にメリットが発生している。
- バリューチェーン関係者間の信頼関係構築、関係強化に繋がった。
- 合理的な加工・流通、価格の透明性、強度の確保、生産者の顔が見えるトレーサビリティ等の厳しい条件を満たす木材を「SPウッド」としてブランド化し、付加価値を向上させた。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- バリューチェーン関係者によるトレーサビリティの確立と品質確保による商品価値の向上
- デジタル技術による情報共有
- 山主（生産者）への利益還元と持続可能性と競争性を有する産業構造の確立

（出典）日本政策金融公庫「AFCフォーラム（2018年2月号）」



(事例17) 農林漁業者が個人の顧客に直接商品を販売するためのオンライン直売所「食べチョク」

- 生産者が生鮮品等を消費者に直接販売している日本最大のオンライン直売所。自治体との連携多数
- 「生産者のこだわりが正当に評価される世界へ」をコンセプトに事業を展開
- 青果物については従来比2倍以上の粗利確保を実現

【検討経緯・目的】

- 「こだわって作っても高く売れない」、人手不足による「耕作放棄地」の拡大等、農業がモチベーションを保ちづらい職業となっていることへの課題認識があった。
- 日本の農業の抱える様々な課題を、「IT技術」を用いて解決することを目指した。
- 「生産者のこだわりが正当に評価される世界へ」をビジョンに品質にこだわる農家・漁師から旬の食材を直接取り寄せできる産直通販サイトの設立・運営を進めることとした。

【取組内容】

- 農業者・漁業者（生産者）が直接、消費者に販売することで、中間業者を介さず商品を流通させることにより、物流等に係る費用を縮減し、生産者に還元される収益の向上を目指した。
- 自治体等と連携することにより、消費者の安心感を向上するとともに、様々なプロジェクトを進めている。
- ECサイトを活用した農林水産物の販路拡大を中心として、定期便サービスの提供等事業・サービスの多角化を進めてきた。

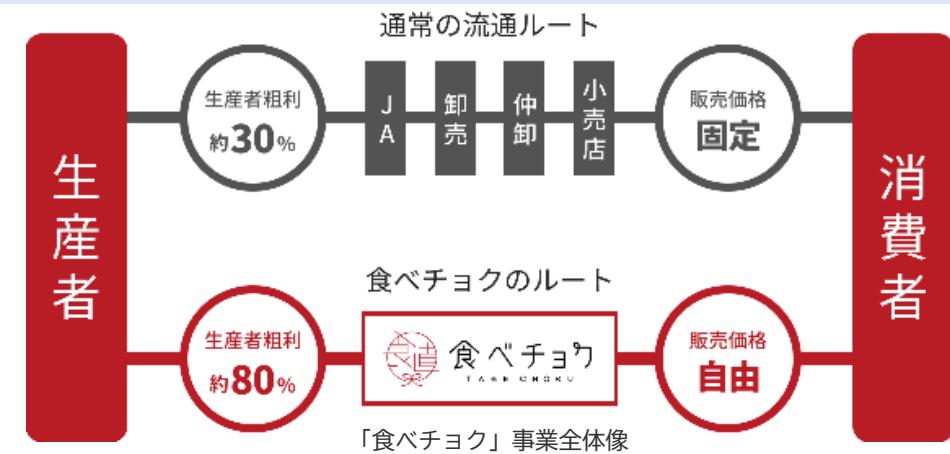
【取組みによる効果】

- 生産者と直接メッセージのやりとりも可能であり、消費者が生産者のおすすめレシピを教えてもらうなど、ECサイトを通じたコミュニケーションの確立が評価されている。
- 消費者への直接販売により、流通コストが削減され生産者に利益が還元される（従来比1.8倍）。さらに、農家（生産者）に直接のファン（消費者）が付く。

【気仙沼の事業展開に向けた示唆】

- 生産者・消費者を介する中間事業者との連携・マッチング
- 産地と消費者を直接つなぐ受発注システムの構築による消費者ニーズの把握とニーズに即した商品販売の展開
- 直接販売による物流の中間コストの軽減と生産者利益の拡大

（出典）株式会社ビビットガーデン



個人向けECサイト「食べチョク」



生産者・食品企業等との共同商品開発

個別事例から見る水産バリューチェーン検討に係るキーワード（総括）

事例	バリューチェーン構築における特徴	事例	バリューチェーン構築における特徴
四国東南区バリューチェーン流通改善協議会	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有システムの構築 取引先のニーズの把握とニーズに適う商品の開発 商品販売先の多角化による安定的な販売網 	しものせきデジタル水産業推進コンソーシアム	<ul style="list-style-type: none"> 気仙沼と同時期にデジタル水産業の確立を目指す取組み 関係者をデジタルでつなげるシステムを構築とデジタルが一気通貫する市場内の仕組みの構築（E-1・E-2の連携）
バスあいのり水産バリューチェーン改善促進協議会	<ul style="list-style-type: none"> 異業種連携 双方にメリットがあるビジネスモデルの構築 IoT技術を活用した品質管理と付加価値向上 付加価値向上による希少性、品質等の消費者評価の向上 	流通プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> トレーサビリティシステムや直接的な受発注システム（マッチング）の構築による流通コストの低減、生産者の利益拡大、消費者の費用負担の軽減 産地や漁師の名称明記による安心感や認知度等の向上
西日本地区バリューチェーン流通改善協議会	<ul style="list-style-type: none"> システム導入等による省力化等将来を見据えたサプライチェーン全体の改善・効率化 取引先との連携による消費者や商品ニーズの正確な把握 鮮度管理等の付加価値の情報提供 	AIスマート給餌機によるハマチ養殖	<ul style="list-style-type: none"> システム会社と飲食店の協業によるサプライチェーンの確立、商品の付加価値の向上 AI・IoTを活用することによる生産性向上や省力化 消費者への安定的・リーズナブル・高品質な商品提供
JFバリューチェーン改善検討協議会	<ul style="list-style-type: none"> 産地と消費者を直接つなぐ受発注システム（マッチング）の構築 消費者ニーズの把握とニーズに即した商品販売の展開 商品魅力や産地情報の直接的な情報・価値提供 	アグリテック×ブランディング「ミガキイチゴ」	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術を活用した生産性の向上 糖度や香り、サイズなど消費者が理解できる項目を用いながら独自の基準に基づく商品のブランド化 熟練者の技術をIT化や形式知化により継承（持続性）
Ocean to Table Council	<ul style="list-style-type: none"> 付加価値情報の付加による生産者への利益還元 漁業者や販売業者が「魚価の向上」や「トレーサビリティ情報の付加価値」を実感 	農家と顧客をつなぐ新しい流通「やさいバス」	<ul style="list-style-type: none"> 産地と消費者を直接つなぐ受発注システム（マッチング）によるニーズ把握とニーズに即した商品販売の展開 直接販売による中間コストの軽減と生産者利益の拡大
JFライブコマース検討協議会	<ul style="list-style-type: none"> 生産者と消費者の直接対話による商品PRと消費喚起 商品魅力や産地情報の直接的な情報・価値提供 	『アグリノート米市場』	<ul style="list-style-type: none"> 産地と取引先（消費）を直接つなぐ受発注システムの構築による取引先ニーズの把握とニーズに即した商品販売
新幹線高速物流検討協議会	<ul style="list-style-type: none"> 産地と消費者を直接つなぐ受発注システム（マッチング）の構築 直接販売による中間コストの軽減と生産者利益の拡大 	新しい木材流通システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> トレーサビリティの確立と品質確保による価値の向上 生産者への利益還元と持続可能性と競争性を有する産業構造の確立
福井県水産バリューチェーン改善協議会	<ul style="list-style-type: none"> 消費者に価値を提供するため基準を設けてブランド化 「価値」を正しく提供しながらの販路開拓・拡大 入荷・在庫情報をリアルタイムで共有し、発注が可能な受発注システム（マッチング）を開発 	オンライン直売所「食べチョク」	<ul style="list-style-type: none"> 中間事業者との連携・マッチング 産地と消費者を直接つなぐ受発注システム（マッチング）によるニーズ把握とニーズに即した商品販売の展開 直接販売による中間コストの軽減と生産者利益の拡大

参考事例を踏まえた「バリューチェーン」構築の方向性

■バリューチェーンの構成要素



■気仙沼における「バリューチェーン」構築の方向性

- 他分野・他地域における参考事例を踏まえ、気仙沼において、どのようなバリューチェーンの構築を目指していくかが今後の論点となる。
- 参考事例を踏まえ、ビジネスモデルとしては次の3パターンが考えられる

